

1. 2023年度海外留学(実績)

対象学科	派遣先大学等	派遣期間	派遣人数	単位認定	研修目的等
英米語学科	アルバータ大学(カナダ)	2023年4月～12月 (9ヶ月)	2	有	派遣先であるカナダに滞在しながら多様性を尊重する多文化共生社会を理解するとともに、グローバル社会で活躍するために必要な実践的英語力を向上させる。
中国語学科	東呉大学(台湾)	2023年9月～翌年2月 (6ヶ月)	6	有	グローバル社会で活躍しうる有為な人材の育成を目標とし、国際未来社会で求められる中国語の実践的な能力を向上させるとともに、台湾の社会や文化への理解を深める。
HT学科	サンウェイ大学(マレーシア)	2023年1月～12月 (12ヶ月)	1	有	異文化社会に身を置くことで国際感覚を養うとともに、世界に通じるホスピタリティ・マインドを身につける。

2. 2023年度海外研修(実績)

(注)○は奨学派遣

対象学科等	派遣先大学等	派遣期間	派遣人数	*単位認定	研修目的等
日本語学科	○ウーロンゴン大学(オーストラリア)	2024年2月17日～3月2日 (15日間)	2	—	オーストラリアで行われている日本語教育の現状を理解するとともに、授業実践を通して日本語に関する専門知識、日本語教育に関する知識と能力を身につける。
英米語学科	○ハワイ大学(アメリカ)	2023年8月27日～9月17日 (22日間)	10	有	国際未来社会で活躍できる英語コミュニケーション能力を向上させるとともに、派遣先国の社会、文化をより深く理解し、多様化する社会で自ら積極的に行動できる異文化対応能力を身につける。
	カンタベリークライストチャーチ大学(イギリス)	2023年8月11日～9月3日 (24日間)	7	有	
	ハワイ大学(アメリカ)	2024年2月4日～2月25日 (22日間)	6	有	
	○ウーロンゴン大学(オーストラリア)	2024年2月17日～3月2日 (15日間)	2	—	国際未来社会で活躍できる英語コミュニケーション能力を向上させるとともに、TESOLの専門家から英語指導に関する理論と実践を学ぶ。
中国語学科	北京語言大学(中国)	2023年8月1日～8月30日 (30日間)	3	—	中国語の「読む」「書く」「聞く」「話す」の4技能を伸ばすとともに、実際に中国に滞在しながらコミュニケーションや文化を体験し、国際未来社会で求められる実践的な能力を高める。
	○東呉大学(台湾)	2024年2月20日～2月26日 (7日間)	6	—	台湾の標準語としての「国語」と明海大学で学んだ「普通語」との発音や語彙における差異を調査。同時に東呉大学での学生交流などを通じ、現地の社会・文化・習慣への理解を深める。
外国語(GSM)	アジア研修(シンガポール)	2023年9月3日～9月9日 (7日間)	10	有	現地企業の視察を通して、異文化を理解し、日本企業または外資系企業がどのようにアジアでビジネスを展開しているか、またその課題について学ぶ。
外国語(教職)	ウーロンゴン大学(オーストラリア)	2024年2月17日～3月2日 (15日間)	4	—	国際未来社会で活躍できる英語コミュニケーション能力を向上させるとともに、教育の分野で活躍できる能力を身につける。
経済学科	○ハワイ大学(アメリカ)	2023年8月27日～9月17日 (22日間)	13	有	国際未来社会で活躍できる英語コミュニケーション能力を向上させるとともに、派遣先国の社会、文化をより深く理解し、多様化する社会で自ら積極的に行動できる異文化対応能力を身につける。
	アジア研修(シンガポール)	2023年9月3日～9月9日 (7日間)	10	—	現地企業の視察を通して、異文化を理解し、日本企業または外資系企業がどのようにアジアでビジネスを展開しているか、またその課題について学ぶ。
	アジア研修(シンガポール)	2024年2月25日～3月1日 (6日間)	8	—	
不動産学科	○ハワイ大学(アメリカ)	2023年8月30日～9月6日 (8日間)	8	—	ハワイの不動産開発現場を視察するとともに、協定大学で現地不動産関連の講義を受け、グローバルな感覚や不動産学の知見を深化させる。
	ハワイ大学(アメリカ)		5	—	
HT学科	○ハワイ大学(アメリカ)	2023年8月28日～9月8日 (12日間)	10	—	世界有数の観光地であるハワイの観光産業施設等を見学し、ハワイの魅力や歴史・文化がどのように観光に影響しているか理解を深めるとともに、観光関連の講義を受け、英語の運用能力を実践する。
口腔保健学科	○ハワイ大学(アメリカ)	2023年9月3日～9月10日 (8日間)	5	—	歯科衛生士養成教育に関連した講義を受講するとともに、キャンパス内施設や開業歯科クリニックの見学を行い、米国の歯科衛生士の役割や業務を理解し、口腔保健に基づく歯科衛生活動について論理的に考える視野を備える。

*単位認定に当たっては、研修出発前後の事前・事後授業等、現地での研修及び授業外学習の時間数を満たし、その成果が認められた場合に単位を認定します。

長期留学成果報告書

留学先国及び留学先大学： アルバータ大学（カナダ）

留学期間： 2023年4月～2023年12月

1 留学先で学習した内容について、詳しく書くこと（400字以上）

2023年5月から12月までの約8か月間、カナダ、アルバータ大学のIVSPというプログラムに参加しました。プログラム前半の春・夏学期中はアカデミックコースの準備を目的としたEAPコースという語学研修コースで学修しました。EAPコースでは、毎週月～金曜日に1日3時間、レベル別に分かれた少人数クラスで英語をブラッシュアップしました。春学期に受講したEAP 135では、クラスメイト全員が日本人のクラスでした。7週間にわたるコースの前半には、英語でのメールの書き方や英単語のアクセント、基本的な英文法を学びました。これらを以前に学んだことがあった私にとっては、復習のような内容であると感じました。ライティングの学習では、パラグラフの作成を中心に特訓しました。コースの後半には個人でプレゼンテーションを行いました。夏学期に受講したEAP 140では、EAP 135よりもさらに難易度が上がった内容を学習しました。特にライティングでは、EAP 135で学んだパラグラフの書き方を応用して、エッセイの作成に力を入れて取り組みました。毎週金曜日にエッセイの提出課題が出され、各週明けに先生からのフィードバックをもらい、次週のエッセイ作成につなげる、という流れでした。さらにエッセイを書きあげるのに制限時間が設けられていたため、タイムマネジメントをしながら効率的に英文を書くスキルが身につきました。限られた時間のなかでエッセイを書きあげることは、書きたい内容を素早く英語にするスキルの向上にも役立ちました。他にもEAPコースでは、ミニゲームや、教科書（EAP 135では明海大学で1年次必修科目のListeningで使用していた教科書と同じものを使用しました）の内容に沿ってディスカッションなどのグループワーク、個人及びペアでのプレゼンテーションなどを行いました。学期末にはリーディング、リスニング、ライティングの試験がありました。また、授業後には自由参加型のワークショップ（Read and Write）に出席し、ライティングを重点的に取り組みました。EAPコースでは、先生ごとに授業の進め方が変わることで、ワークショップに参加できることなどが魅力的であると感じました。

プログラム後半の秋学期からは学部授業を聴講し、現地の学生や他の留学生に混ざって授業を受けました。IVSPでは、数あるコースの中からOpen Studiesに分類されるコースを選択でき、私は2科目を聴講形式で受講しました。Understanding East Asia（月水金、各1時間）の授業では、近代東アジアにおける歴史や仏教、文学、マンガなどを学びました。著名な日本の漫画家である手塚治虫の作品について学ぶ授業もあり、東アジアの中で見る日本の漫画の影響力を英語で学ぶことは新鮮で興味深かったです。講義だけでなく、週に1度少人数でのセミナークラスがあり、日本のアニメや漫画が好きな学生さんが多くいたことも印象的です。Introductory Sociology（毎週水曜、3時間）は、社会学の概論を学べるコースで、毎週異なるテーマを取り上げ講義が行われました。宗教や人種、教育、貧困問題などをカナダの統計や例を参考にしながら学びました。講義中に飛び交う質問や意見の主張などで授業が止まることは日常茶飯事で、日本の多くの大学とは異なる海外大学らしい部分を体験することができました。

2 留学先での生活（滞在形態、海外での生活や現地の人との交流を通じて印象に残ったこと等）について、詳しく書くこと（400字以上）

留学先のアルバータ大学キャンパス内にある Nipisiy House という学生寮に滞在しました。IVSP のプログラム生は 4 か月契約だったため、寮内で一度引っ越しをしました。春・夏学期中は 6 人部屋で、日本人 3 人、韓国人の留学生 1 人の計 5 人で共同生活を行いました。夏学期終わりからの秋学期中は 4 人部屋で、カナダ人 2 人、オーストラリア人の交換留学生 1 人の計 4 人で生活を共にしました。部屋は 1 人部屋でオートロックのため、トイレを利用する際や少しの外出にもカギが必要でした。1 人部屋の中には、ベッド、デスク、チェスト、ウォークインクローゼット等の家具が完備されていました。セントラルヒーティング方式だったため、温度調節は自由にできませんでしたが、生活に支障は出ませんでした。洗面台は 1 人 1 つ使用でき、トイレとシャワールームは 2 人で共用、キッチン全員で共用でした。キッチンにはコンロのほかにオーブンもついていましたが、電子レンジはありませんでした（寮の 1 階部分には居住者全員が利用できる電子レンジが 1 台ありました）。また寮内にはフロアごとに共用スペースがあり、1 階にはジムもありました。寮生活で良かった点は、安全性や教室までの距離の近さ、ルームメイトの存在など様々あります。キャンパス内の寮ということでセキュリティ面がよく、寮に入るためにはアルバータ大学の学生証が必要でした。比較的安全でしたが、特に寒い時期はまれに寮内に居住者以外の侵入がありました（不法侵入やトラブルがあった際には直ちに Residence service からメールが届きます）。

生活全般で大変だったことは、家事や買い物です。寮付近にあるスーパーまではバスで 10 分（徒歩で 30 分）かかり、週に 1、2 度ほど利用しました。金銭面を考慮しなるべく自炊をするよう心がけていました。炊飯器を購入しましたが、サラダやパスタを作ることが多かったです。

現地の方は優しくフレンドリーな方が多い印象でした。ある日キャンパス近くにある公園と隣接しているゴルフ場内で迷ってしまったときに、ゴルフ場を訪れていた現地の方に目的地の公園までゴルフカートに乗せてもらうという出来事がありました。街で出会った現地の学生やカナダ人のルームメイトには冬場におすすめの衣類や靴などのアドバイスをもらうことができました。ほかにも、レストランなどのお店のスタッフの方々も気さくで明るい方が多く、人のあたたかさを感じました。休日には、毎週土曜日に開かれるファーマーズマーケットを訪れたり、さまざまなお祭りに参加しました。

3 留学を振り返って

(1) 留学を通じて成長したこと、感じたこと、得たことを留学前の意識と比べて書くこと（400字以上）

8 か月に及ぶアルバータ大学での長期留学では、学習面だけでなく、生活面においても多くを学び、成長することができました。エドモントンでの滞在中に大学内外でたくさんの人と関わることで、多様な価値観を受け入れることの大切さを学ぶことができました。また自分にとって、多くの方との交流が社交性を培う非常に良い機会となりました。帰国後は、日本にいる友人やアルバイト先の先輩など周囲から以前と比べて性格が明るくなったと言われることが多く、人間面でも成長することができた実感しています。さらに人生で初めての寮生活で自炊や掃除、洗濯を自分ひとりでしなければならなかったことで、これまで家で母親がやっていたことも多少進んで行うようになりました。

本留学を通じて感じたことは、まさに「百聞は一見に如かず」であるということです。エドモントンへ出発する前は、「治安が良い」、「安全である」などと聞き、とても良いイメージを持っていました。しかし実際に訪れてみると、ホームレスや薬物中毒者の数の多さを目の当たりにし、外を出歩くことも非常に危険であると感じました。実際に現地に行ってみなければわからないことがたくさんあるということや、現実を知ることができました。同時に自国がいかに安全であるかということも再認識することができました。

ロッキー山脈（カナディアンロッキー）が通るアルバータ州に位置するエドモントンはカナダ国内でも特に自然豊かで、参加したツアーすべてで壮大な景色をみることができとても感動しました。春から夏にかけては異常気象による山火事の影響で街一帯の空気が汚染され、冬には寮の部屋からオーロラが見えたり降雪もあったことで、日本では経験しないような自然現象ばかりでした。

約 8 か月間の留学を通じて、自身の語学力の更なるスキルアップはもちろんですが、ルームメイトや現地の友人たちとの交流でいろいろなニュアンスの英語表現も学びました。

(2) (1) を今後の学生生活や将来にどう活かしていきたいか、詳しく書くこと (400 字以上)

アルバータ大学での留学経験は私の人生にとって間違いなく有意義で貴重なものとなりました。いろいろな国の人とのかかわりであふれた留学生活は、さまざまなものの見方や価値観を知る機会となりました。また本留学は、今後大学生として就職活動をする際に、成長した語学スキルや人間力、より広い視野をもってやりたい仕事を決めるのに役立つと思います。さらにこの経験は、日常生活を自分ひとりで管理することや新しい環境でコミュニティに参加することの難しさを教えてくれました。本留学を通じて支えてくれたすべての人に感謝の気持ちを忘れずに、経験したこと、学んだことを今後活かしていきたいと思います。また個人的ではありますが、本留学では秋学期に 1 日 3 時間の授業を経験したことにより、来年度の明海大学での授業はより集中して取り組めるのではないかと考えています。

4 今後留学する人へのアドバイスや心構え、メッセージ等について、詳しく書くこと (400 字以上)

私は実際に留学を経験し生活をするうえで、滞在先の事前調査や留学の事前準備をもっとしておけばよかったと後悔しています。長期留学では金銭面の管理や把握がとても大切です。慣れない場所で生活を立ち上げるのにはコストがかかり、円安という状況もあり毎月見積もっていた生活費を大幅に上回ってしまいました。

学習面では TOEFL の試験対策や実際の試験が現地での授業に非常に役立つと思います。実際に学期中は授業のペースや出されるリーディング課題の多さに追いつけず、限られた時間の中で読み進めることができませんでした。海外大学での英語のリーディングに困難さを感じ、ストレスになることもありました (途中から最低でもパラグラフの最初と最後の文を読み何とか内容を理解していました)。英語での授業について行くためにも、日ごろの学修にストレスなく取り組むためにも、留学を成功させるのにも、想定以上の事前準備が必要であると実感しました。

一方で、現地に行ってみてから何とかなることもあります！わからないことに直面した際には躊躇なく人 (大学の学生支援課やプログラム担当者、現地の方など…) に聞くことも留学生活のうえで重要でした。

もし今後アルバータ大学への留学を考えている方がいれば、質問や相談など出発前でも留学の最中でも力になればと思います。

以 上

長期留学成果報告書

留学先国及び留学先大学： 東呉大学（台湾）

留学期間： 2023年9月 ～ 2024年2月

1 留学先で学習した内容について、詳しく書くこと（400字以上）

台湾では中国語を話すことと標準語との違い、現地で使われる言葉を学びました。私は今まで大学生活を通して、資格取得のために書く勉強を中心に行っていました。それにより、日本語の通じない環境下で自分の意思を示したい際にとっても手こずりました。そのため、現地の友人や外国人とのコミュニケーションを通して、自分の話す練習や話し慣れることを意識しながら過ごしました。分からない文法や発音は現地の友人や先生に聞くことが出来たため、日本にいる時より疑問を解決しやすかったです。

また、授業や現地の人と話す際には大学で習った標準語とは違った読み方があることを知りました。標準語で使われる r 音は台湾では使わず、中国語という単語も汉语より中文を主に使用していました。国や地域によって違った読み方、使い方があったことや言い方にも優先順位があることを知りました。そのため、日常生活の会話では、少しずつ知らない単語が減っていき、使える単語が増えていきました。授業では台湾の文化や習慣を学ぶことができ、より文化理解に繋がり、他の留学生の国との違いも知ることができました。これらは留学の醍醐味だと感じました。

2 留学先での生活（滞在形態、海外での生活や現地の人との交流を通じて印象に残ったこと等）について、詳しく書くこと（400字以上）

留学先の大学には宿舎があり、そこには様々な国の留学生が生活していたため、各国の留学生の生活習慣や価値観、文化を知ることが出来ました。

特に台湾は12月でも暖かい気候があり、寒い地域の留学生はとて過ごしやすいようでした。逆に暑い地域の留学生は台湾の寒い気候に慣れておらず、苦戦していました。台湾は日本より気温が全体的に高いですが、週ごとに気候が違うため寒暖差が激しかったです。

また、宿舎では小さい虫やヤモリが多く出現し、湿気も多かったため、食品の管理や除湿剤の準備等、自然現象への対策が必須でした。

観光地では日本人の観光客が多くいるため、日本語を話せる店員が多かったです。特に年配の方に多かったため、歴史にも関係があると考えました。台湾人は日本に対して旅行に行きたい、などの好印象を持っている人が多いようで、道で質問した際には親切且つ丁寧に教えて下さったり、多くの手助けもして頂きました。宿舎で洗濯をしようとした際、宿舎の洗濯機は使用するのに20元必要だったため、ルームメイトや宿舎の友人と両替をし合ったりなど助け合いが日常的にありました。

3 留学を振り返って

(1) 留学を通じて成長したこと、感じたこと、得たことを留学前の意識と比べて書くこと (400 字以上)

自分自身が成長したと感じることは、人とのコミュニケーションを恐れなくなったことです。私は元々初対面の人も恐れずにコミュニケーションを取れる人間だと思っていましたが、日本では時々定員に商品を注文する際や電話対応の際に緊張してしまっていました。しかし、台湾では日本語の通じない人達とのコミュニケーションが必須であり、また大学内のサークル活動にも度々参加していたため、不慣れな環境下で半年を過ごし、友人を多く作ることが出来た、という自信と人と交流する意欲や度胸が着きました。それにより、帰国後は臆することなく定員との会話や電話対応に取り組むことができ、大きな成長に繋がりました。

また、外国人と会話をしていく内に日本人とは違った価値観や良い点を見つけることができ、自分の目指す人物像や気持ちが前向きになる考え方が身につきました。勉強方法についても日本人と外国人との違いがあり、私は外国人のような話す能力を向上させたいため、考えるよりも先に行動し、よりいっそう人との交流意欲が着きました。

(2) (1) を今後の学生生活や将来にどう活かしていきたいか、詳しく書くこと (400 字以上)

留学先では自信や度胸が着き、半年間で日本とは違った生活に慣れることが出来たため、屋根がある場所だったら生きていける、という考えを大切にしていきたいです。そして、就職先等の不慣れな環境下でも様々なことに前向きに取り組みたいと感じました。特に、自分一人で難しく考え過ぎず、何事にも挑戦する気持ちを強く持ちたいです。

また、色々な人の生活習慣や文化、宗教を間近で見ることが出来たため、幅広い価値観を持って人と関わり、人の意見を素直に肯定できる人であり続けたいです。中国語でも正しく人と関わりを持てるように、台湾で得た単語の読み違いなども意識しながら勉強を続け、資格取得に努めます。半年間の台湾留学で大変なこともありました。前向きな気持ちと人との関わり方等を学ぶことが出来たため、どんな環境下でもこの経験忘れずに過ごしたいです。

4 今後留学する人へのアドバイスや心構え、メッセージ等について、詳しく書くこと (400 字以上)

半年間の留学は自分が思っている以上に短かったです。そのため、自分のやるべきことを見つけ、優先順位をしっかりと立てて行動することが大切だと学びました。また、その中でも一人だけで行動するのも力にはなりますが、他の留学生、現地の人との交流でその国の文化や言葉使い、自分自身についても知れることがあるため、無理のない範囲で人との交流に力を入れてみるのもいいと思いました。

私は台湾に来たばかりの際は頼れる人がわからず、不安や心細い気持ちがありました。二週間もすれば自分の生活ルーティンが生まれ心に余裕ができます。また、台湾人や他の留学生は皆優しい人ばかりなので気軽に話しかけても大丈夫です。すぐに友達ができます。

留学期間中、辛い時間を過ごす方が時間ももったいないので、美味しいものを沢山食べ、よく睡眠を取ってほしいです。台湾には日本の商品は沢山売っていますが値段が高いため、日本産の必需品はなるべく日本から持っていくのがいいと思いました。

長期留学成果報告書

留学先国及び留学先大学： 東呉大学（台湾）

留学期間： 2023年9月 ～ 2024年2月

1 留学先で学習した内容について、詳しく書くこと（400字以上）

台湾では中国語を話すことと標準語との違い、現地で使われる言葉を学びました。私は今まで大学生活を通して、資格取得のために書く勉強を中心に行っていました。それにより、日本語の通じない環境下で自分の意思を示したい際にとっても手こずりました。そのため、現地の友人や外国人とのコミュニケーションを通して、自分の話す練習や話し慣れることを意識しながら過ごしました。分からない文法や発音は現地の友人や先生に聞くことが出来たため、日本にいる時より疑問を解決しやすかったです。

また、授業や現地の人と話す際には大学で習った標準語とは違った読み方があることを知りました。標準語で使われる r 音は台湾では使わず、中国語という単語も汉语より中文を主に使用していました。国や地域によって違った読み方、使い方があったことや言い方にも優先順位があることを知りました。そのため、日常生活の会話では、少しずつ知らない単語が減っていき、使える単語が増えていきました。授業では台湾の文化や習慣を学ぶことができ、より文化理解に繋がり、他の留学生の国との違いも知ることができました。これらは留学の醍醐味だと感じました。

2 留学先での生活（滞在形態、海外での生活や現地の人との交流を通じて印象に残ったこと等）について、詳しく書くこと（400字以上）

留学先の大学には宿舎があり、そこには様々な国の留学生が生活していたため、各国の留学生の生活習慣や価値観、文化を知ることが出来ました。

特に台湾は12月でも暖かい気候があり、寒い地域の留学生はとて過ごしやすいようでした。逆に暑い地域の留学生は台湾の寒い気候に慣れておらず、苦戦していました。台湾は日本より気温が全体的に高いですが、週ごとに気候が違うため寒暖差が激しかったです。

また、宿舎では小さい虫やヤモリが多く出現し、湿気も多かったため、食品の管理や除湿剤の準備等、自然現象への対策が必須でした。

観光地では日本人の観光客が多くいるため、日本語を話せる店員が多かったです。特に年配の方に多かったため、歴史にも関係があると考えました。台湾人は日本に対して旅行に行きたい、などの好印象を持っている人が多いようで、道で質問した際には親切且つ丁寧に教えて下さったり、多くの手助けもして頂きました。宿舎で洗濯をしようとした際、宿舎の洗濯機は使用するのに20元必要だったため、ルームメイトや宿舎の友人と両替をし合ったりなど助け合いが日常的にありました。

3 留学を振り返って

(1) 留学を通じて成長したこと、感じたこと、得たことを留学前の意識と比べて書くこと (400 字以上)

自分自身が成長したと感じることは、人とのコミュニケーションを恐れなくなったことです。私は元々初対面の人も恐れずにコミュニケーションを取れる人間だと思っていましたが、日本では時々定員に商品を注文する際や電話対応の際に緊張してしまっていました。しかし、台湾では日本語の通じない人達とのコミュニケーションが必須であり、また大学内のサークル活動にも度々参加していたため、不慣れな環境下で半年を過ごし、友人を多く作ることが出来た、という自信と人と交流する意欲や度胸が着きました。それにより、帰国後は臆することなく定員との会話や電話対応に取り組むことができ、大きな成長に繋がりました。

また、外国人と会話をしていく内に日本人とは違った価値観や良い点を見つけることができ、自分の目指す人物像や気持ちが前向きになる考え方が身につきました。勉強方法についても日本人と外国人との違いがあり、私は外国人のような話す能力を向上させたいため、考えるよりも先に行動し、よりいっそう人との交流意欲が着きました。

(2) (1) を今後の学生生活や将来にどう活かしていきたいか、詳しく書くこと (400 字以上)

留学先では自信や度胸が着き、半年間で日本とは違った生活に慣れることが出来たため、屋根がある場所だったら生きていける、という考えを大切にしていきたいです。そして、就職先等の不慣れな環境下でも様々なことに前向きに取り組みたいと感じました。特に、自分一人で難しく考え過ぎず、何事にも挑戦する気持ちを強く持ちたいです。

また、色々な人の生活習慣や文化、宗教を間近で見ることが出来たため、幅広い価値観を持って人と関わり、人の意見を素直に肯定できる人であり続けたいです。中国語でも正しく人と関わりを持てるように、台湾で得た単語の読み違いなども意識しながら勉強を続け、資格取得に努めます。半年間の台湾留学で大変なこともありました。前向きな気持ちと人との関わり方等を学ぶことが出来たため、どんな環境下でもこの経験忘れずに過ごしたいです。

4 今後留学する人へのアドバイスや心構え、メッセージ等について、詳しく書くこと (400 字以上)

半年間の留学は自分が思っている以上に短かったです。そのため、自分のやるべきことを見つけ、優先順位をしっかりと立てて行動することが大切だと学びました。また、その中でも一人だけで行動するのも力にはなりますが、他の留学生、現地の人との交流でその国の文化や言葉使い、自分自身についても知れることがあるため、無理のない範囲で人との交流に力を入れてみるのもいいと思いました。

私は台湾に来たばかりの際は頼れる人がわからず、不安や心細い気持ちがありました。二週間もすれば自分の生活ルーティンが生まれ心に余裕ができます。また、台湾人や他の留学生は皆優しい人ばかりなので気軽に話しかけても大丈夫です。すぐに友達ができます。

留学期間中、辛い時間を過ごす方が時間ももったいないので、美味しいものを沢山食べ、よく睡眠を取ってほしいです。台湾には日本の商品は沢山売っていますが値段が高いため、日本産の必需品はなるべく日本から持っていくのがいいと思いました。

海外研修成果報告書

研修先国および研修機関等： ウーロンゴン大学（オーストラリア）

研修期間： 2024年2月17日（土）～ 2024年3月2日（土）

1 派遣先で学習した内容（授業内容や視察内容）について、詳しく書くこと（400字以上）

私が派遣先で学習した内容として、第一に挙げられるのが第二言語習得における指導法です。海外研修における授業の半分は明海大学の学生だけのクラスであり、そこでは英語という言語を学習することと同時に、第二言語がどのようにすれば身につけやすくなるのかを、実際に体験しながら学ぶ授業でした。そこでは、言語を学ぶ際には、アクティブな学習方法を行うことが大切でした。例えば、体を動かすゲームを行う中で英語を使うことによって楽しみながら、かつ、体に英語という言語を染みつかせることができるということを学びました。このことから、学習をする際にどれだけ生徒が楽しんで言語を習得できるかが大切だと考え、もちろん、文法を覚えるだけの時間も必要だと考えますが、それだけでは生徒が飽きてしまい、第二言語習得へのモチベーションが下がってしまうと考えているため、生徒が楽しんで第二言語を習得する指導を行っていく必要があると感じました。

次に学習した内容として、オーストラリア現地の日本語学校への視察です。今回は中学校三年生の日本語を選択授業として履修し始めて五週目のクラスを視察しました。そこでは ICT が活用されており、生徒全員がパソコンを使ってゲームを行いながら、授業に必要な単語を学習するという導入部分があり、この導入であれば生徒が楽しく授業に取り組むことができるようになっていました。また、授業の内容は生徒同士や先生と生徒が日本語で会話を中心に行っており、日本語について理解し、話すことができることを最初の目標にしていました。その後、まとめとして、リスニングを行い、内容を書くという学習を行っていたため、言語の四技能をまんべんなく学べる学習をしていたように感じました。以上のことから、私は第二言語を習得するための指導法やオーストラリアにおける日本語指導について学ぶことができました。

2 派遣先での生活（滞在形態、海外での生活や現地の人との交流を通じて印象に残ったこと等）について、詳しく書くこと（400字以上）

私がオーストラリアで生活をするうえで一番最初に驚いた点は、朝型の生活を行っているという点です。日本では夜の12時ごろに就寝し、朝は6時から7時程度に起きる人が多くみられますが、オーストラリアでは夜の10時ごろに就寝をする家庭が多く、朝は早い日は5時ごろに起きることもありました。そのため、オーストラリアのお店のほとんどが日本と比べて開店時間が早く、スーパーマーケットなどは朝の7時から、普通のお店では8時開店のお店が多くみられました。しかし、8時開店のお店は閉店時間も早く、16時頃には閉店してしまうお店も多く、日本とは違った時間の習慣を体験することができました。

また、オーストラリアで生活し、現地の人と交流をし、印象に残ったこととして、自身が思っていた以上にコミュニケーションを取ることができたという点でした。私は日本語学科のため、現地での英語を使ったコミュニケーションに不安を持っていましたが、自身が伝えようとする際には、精いっぱい何を伝えたいのか理解する努力をしてくださったことや、英語で何かを私に伝える際には優しい英語を使って伝えてくださったため、オーストラリアでの生活を有意義に過ごすことができました。このことから、コミュニケーションを取る際には言語が伝わらなくても、積極的に何かを伝えようとする意志があれば、コミュニケーションをとることができると感じました。

3 研修を振り返って

(1) 海外研修を通じて成長したこと、感じたこと、得たことを研修前の意識と比べて書くこと (400字以上)

私が今回の海外研修を通じて成長したこととして、挑戦する大切さを改めて学ぶことができた点です。今回の海外研修は私にとって不安しかありませんでした。初めての海外や英語を使ったコミュニケーションなど日本語学科の自身にとってあまり英語に関して自信がなかったことが挙げられます。しかし、実際に海外研修に行ってみると、自分が思っていた以上に自身の英語力の乏しさは気になることはなく、積極的にコミュニケーションを取ろうとするその意志が大切だということを学びました。もちろん、英語力があるに越したことはないのですが、英語力がなくても身振り手振りや簡単で分かりやすい英語だけ使うなど、工夫次第で生活することができたと考えています。このことから、人と関わるうえで何よりも大切なのは言葉の語彙の多様性ではなく、相手に伝える意志、つまり熱意がどれだけあるかだと考えています。どんなに分かりやすく説明したとしても熱意がなければ、相手にうまく伝わらないケースが出てくると考えており、熱意があればたとえ伝わらなかったとしても相手の方から理解するための努力をしてくれるようになると考えています。このことは自身が目指している国語の教員にも活かせることだと考えており、授業において分かりやすい説明を心がけることは重要なことですが、何よりも自身が生徒に対して、内容を伝えたいという熱意が一番大切なことなのではないかと考えています。

(2) (1) を今後の学生生活や将来にどう活かしていきたいか、詳しく書くこと (400字以上)

私が今回の海外研修を通して成長したことや感じたことは、自身が将来国語の教員になった際に活かしていきたいと考えています。今回海外研修として海外の大学で二週間学んだのですが、周りは自身とは違う国の方々が多く存在していました。その中での不安や心配の思いを経験したことにより、自身が教員となった際に学校にやってきた留学生の不安や心配について共感ができると考えています。また、今回学んだ熱意を持って人と関わるという点から、不安や心配を持っている留学生に対して積極的に声をかけ、コミュニケーションを取ることによって、異国の地で不安を抱えている生徒の悩みを聞き、悩みをどのように解決していけばいいのかアドバイスを送りたいと考えています。その他に、今回日本とは文化や生活習慣がかなり違っているオーストラリアで生活したことによって、他の国の文化や習慣を尊重しなければいけないと考え、自身が教員となった際は、生徒に世界には様々な文化があり、日本はその中の一つでしかないことを伝え、様々な文化を尊重するような考え方を持ってもらえるような指導を行っていきたいと考えています。

以上

海外研修成果報告書

研修先国および研修機関等： ハワイ大学マノア校（アメリカ）

研修期間： 2023年8月27日（日）～ 2023年9月17日（日）

1 派遣先で学習した内容（授業内容や視察内容）について、詳しく書くこと（400字以上）

派遣先のハワイ大学マノア校では、3週間のプログラムを通して多くの学びを得ることができた。クラスメイトや担任の先生との、英語でのコミュニケーションを主とした毎日の授業では、実用的な日常会話や場面に応じた英語表現の使い分けなどについて学んだ。授業内では、少人数のグループで簡単なトピックについて調べ、クラスメイトの前で発表するプレゼンテーションを多く行った。準備する過程から発表まで全てを英語で、かつ、短時間で行うことで、英語のコミュニケーション能力や効率的に調べ学習をする力が身に付いた。

また、週に2回ほど行われた **Interchange** というセッションでは、ハワイ大学の学生と交流する機会があった。そこでは、実際に会話を通じて英語力を高めることができただけでなく、現地の学生の生活や価値観、彼らがハワイ、また日本についてどう感じているのかに触れることができた。その他の授業では、ハワイの代表的な文化であるフラや、ハワイの食文化について先生からお話を聞いたり、自分で調べたりなどして、ハワイの文化や歴史に対する知識を深めることができた。フラのワークショップでは、フラをただ踊りとしてだけではなく、その歴史や起源を含め、フラの価値と楽しさを教えていただいた。2回にわたって行われたクラス別の **Off-campus Educational Activity** は、ハワイの有名な建物や展示物を実際に訪れることができた貴重な経験であった。ワイキキ水族館では、ハワイに生息する海洋生物たちの直面する問題とその保護について学んだ。イオラニ宮殿やハワイ州立図書館などを訪れた際には、実際に自分の目で見て、建物内の空気を感じることで、その歴史の深さや貴重さを実感することができた。

2 派遣先での生活（滞在形態、海外での生活や現地の人との交流を通じて印象に残ったこと等）について、詳しく書くこと（400字以上）

研修先では、大学から離れていない寮の一人部屋に滞在していた。一人暮らしをしている経験から、毎日の食事などに対する心配はそれほどしていなかった。しかし、現地の物価の高さを目の当たりにしてから、食費を含めた毎日の出費への不安が大きかった。食料はスーパーで大容量のものを買って友人と共有したり、比較的に安いお店を探したりなどして節約する工夫をしていた。自身にとっては初めての海外経験であったため、日本との治安のギャップも心配していたが、大学周辺や訪れた先での治安はほとんど問題なく、現地の方々にも親切にいただき、安心して生活することができた。現地で出会った学生も皆とてもフレンドリーで、好きな音楽や映画の話などをして距離が縮まった。共通の趣味の話題では特に、言語の壁なく話が盛り上がるのだと感じたことが印象的であった。

また、他に印象に残っていることは、現地の天気と気候である。日本の湿った夏の空気とは打って変わって、ハワイでは強い日差しの割に汗をかくことが少なく、からっとした気候がとても快適であった。また、昼は基本的に毎日太陽が出ており、頻繁にわか雨（シャワー）に遭遇した。このような快適な気候と晴れやかな天気に加え、現地はどこも美しい自然に囲まれているため、毎日外に出ることを楽しむことができた。

3 研修を振り返って

(1) 海外研修を通じて成長したこと、感じたこと、得たことを研修前の意識と比べて書くこと (400 字以上)

今回 3 週間の研修そして現地での生活を通して、語学力の面で大きく 2 つの収穫があったと感じている。1 つ目は、自身の英語力が実際現地ではどの程度通用するのか知ることができたことである。これは、今の自分がどれほど英語を話すことができず、聞き取ることができないのかを知ることができた、と言い替えても過言ではなく、今まで行っていた英語学習を続けるだけでは自分の理想には到達できないことを感じた。現地でお店の店員さんやネイティブの学生たちとの会話が発生した際、彼らの話している内容が 6~7 割程度しか理解出来ず、もどかしい思いをした。以前に海外に滞在した経験がなかった私は、自分の英語力の程度を実践的に測る場がこれまでなかったが、現地の人との会話や英語を流暢に話す日本人の他の学生を見て、自分の現在の英語力と英語学習への意識が変わった。

2 つ目は、以前と比べ、自信を持って英語を話すことができるようになったことである。前述したとおり、自分の英語力はまだまだ未熟なものである。そのため以前は、英語を話すとき間違いをすることに抵抗があり、自信を持って話すことができなかった。しかし現地の人たちは、こちらが拙い英語で話そうとしても、理解しようとしてくれたし、実際伝える努力をすればこちらの意思是伝わるものだと経験をもって感じた。このことから、間違いを恐れずに、伝える意志と自信を持って、積極的に話すことが何より語学力の向上とコミュニケーションに重要であるという意識を持つようになった。

(2) (1) を今後の学生生活や将来にどう活かしていきたいか、詳しく書くこと (400 字以上)

前述したように、今回の研修と現地で生活した経験は、今の自身の英語力と英語学習について、見直すきっかけとなった。スピーキング力、リスニング力を共に伸ばすには、やはり実際に人と英語で会話する機会を作らなければならない。行くほとんどのお店では英語でのコミュニケーションが求められ、クラス内でも英語以外の言語を使ってはいけないという環境の中で、3 週間という短い期間の中でも自身の英語力が成長したことや、英語での思考に慣れるようになったことを感じた。しかし、日本にいればそのような環境は自ずと降っては来ないため、大学での授業はもちろん、それ以外でも英語を使う環境を積極的に設けたいと思う。

今回の経験で得たことは、まず目の前の就活などに絡む TOEIC や、その他資格取得などに活かしていきたい。研修期間を経て成長したものが元の状態に戻らないよう、今後も継続的に努力をする必要がある。具体的には、就活が本格的に開始する来年度までに TOEIC スコア 850 点以上を取得することが目標である。またその先、社会に出て何らかの形で英語を活かすことのできる職業に就きたいという目標がある。今回の研修では、英語ネイティブの方々だけでなく、英語を使ってハワイで仕事をしている日本人の方とも接する機会があり、その姿がモチベーションとなった。そのようなためには、やはり今の努力と語学力では不十分なため、今回の経験を通して受けた影響と刺激を、目標を叶えるうえでの自身の成長に繋げたい。

海外研修成果報告書

研修先国および研修機関等： カンタベリークライストチャーチ大学（イギリス）

研修期間： 2023年8月11日（金）～ 2023年9月3日（日）

1 派遣先で学習した内容（授業内容や視察内容）について、詳しく書くこと（400字以上）

授業は基本的にすべて英語で進み、現地の大学の先生の授業を受ける形であった。授業では英語の基礎的なスキルを伸ばすために、スピーキングが主に求められた。他にも、音節や発音記号などの簡単な発音の仕組みや単語の学習を行い、英語への理解を深めた。授業では言語だけでなく、イギリスの文化についても学ぶ機会があった。日本とイギリスの文化の違いを比べることで、その違いを詳しく知ることができた。授業で英語を学ぶ際にゲーム形式で学習を進めることが多かったため、理解がしやすく楽しく学ぶことができた。自分の英語力をしっかりと理解することができ、自分の英語力、知識に必要なことを正しく理解できる環境が整っていた。主に4人の先生が交代で毎日授業を行うため、同じ英語であっても人によって変わる発音や話し方などのそれぞれの違いも学ぶことができた。日本では学ぶことが難しいイギリス独自の英語の表現やイギリスに住む人々の考え方、視野の違いなどを学ぶことを通して、これから英語を使う場面ではその意識の違いをよく考える必要があると気づくことができた。

2 派遣先での生活（滞在形態、海外での生活や現地の人との交流を通じて印象に残ったこと等）について、詳しく書くこと（400字以上）

イギリスはカード社会が形成されており、多くの店でクレジットカードが使われていた。クレジットカードのみで支払いを受け付けている店もあることから、買い物をする際に、まず、現金が使えるかどうか聞かなければならないことが1つの文化の違いであると思えた。イギリスに住む多くの人が時間に追われておらず、日が出ている時間が長く20時近くまで外が明るいことから、時間がゆっくりと流れているような感覚があった。

私は寮での生活であったため食事は自炊を多く行っていたが、スーパーに材料を買いに行くと様々な国の食べ物があり、パスタ、中華、カレー、寿司などがあったため、多くの人種が混在するイギリスならではの感じた。人とインターネット上でチャットをする際に、日本人はよくすべて文字に起こして長々と会話を続けるが、イギリスに住む人々はボイスチャットなどを活用し、手短かに済ませるという違いもあった。他にも自撮りなどで情報を他人に伝える際に、日本人はただの写真を多く活用するのと対照的に、イギリスに住む人々は動画を通して簡単に済ませるという違いもあった。

3 研修を振り返って

(1) 海外研修を通じて成長したこと、感じたこと、得たことを研修前の意識と比べて書くこと（400字以上）

この海外研修において自分が1番成長したと思えることは、異文化理解であると考えている。言語面においてもスキルを身につけることができたが、自分の住む国と違う国で3週間過ごすことで、自分自身の考え方を大きく変えることができた。様々な国籍の人が集まるイギリスで出会った人から学ぶことは多く、「外国」という1つの概念への理解を深めることができた。人種、国籍、出身などが違っていても扱う言語は同じであり、1つの隔たりが自分の中でなくなったことに気がつくことができた。現地のキャンパスでは、同じプログラムで来た別の日本の大学の学生と授業を受けていたため、基本的なコミュニケーション能力も伸ばすことができた。研修前には英語圏の海外に行くということで緊張していたが、現地の先生や学生、地域の人と話していると、しっかりとした会話をすることができ、自分の英語力に自信を持つことができた。日本では謙遜する文化があるため自分の自己肯定感があまり高くなかったが、イギリスという国で生活したことで何に対しても自信を持って行動ができるようになった。

(2) (1)を今後の学生生活や将来にどう活かしていきたいか、詳しく書くこと（400字以上）

今後は、今回の海外研修で学んだことを中心に何事にも自信をもって行動をしていきたいと考えている。言語スキルの上達だけでなく、英語全般を学ぶ際に、今回学んだ異文化理解の観点からまた知識を深めていきたい。授業などではもっと自信を持って発言をし、間違いを恐れぬ姿勢で臨んでいきたい。知らないこと、間違えることはいけないことではなく、新たな知識を得るチャンスであることを心がけて、これからの生活を良いものにしていきたい。海外で生活したことで得たこの価値観を忘れずに視野を広げ、これからの学修に励みたい。教員になるという自分の夢を叶えた時には、この経験を活かして英語だけでなくイギリスで学んだ価値観や考え方などを多くの学生に伝え、言語学ぶ楽しさ、奥深さを広めていきたい。1つの文化だけでなく違う文化を学ぶことの大切さを今回の研修で学ぶことができたため、多くの人に海外に行きその自国とは違う文化を学ぶことの大切さを伝えていきたい。

海外研修成果報告書

研修先国および研修機関等： ハワイ大学マノア校（アメリカ）

研修期間： 2024年2月4日（日）～ 2024年2月25日（日）

1 派遣先で学習した内容（授業内容や視察内容）について、詳しく書くこと（400字以上）

今回のハワイ大学マノア校での学習は、ハワイの言語や歴史、Z世代に重点を置いたトピックに基づいて学習をしました。ハワイについての授業では、pidgin やハワイアンスラングを授業で学び、実際に授業の一環でグループを作りハワイ大学の学生にインタビューをしました。また、ハワイ大学の学生だけでなく、キャンパス内にいる現地の人との交流も含め英語で会話することで、スピーキング力とリスニング力の向上に繋がりました。インタビューを通して学んだ pidgin やハワイアンスラング、GenZ スラングを文章に織り交ぜてペアで発表することで、自分たちで考えた文章と学んだ意味合いが合っているかなどアウトプットする機会が多く、インプット型の学習より格段に早く学習した内容が身に付きました。ハワイの歴史については、各授業で少しづつ触れ最終的にペア、グループワークで一つのことについて調べました。私はカメハメハ4世について歴史的なことから個人についてもパートナーと調べ、その人にゆかりのある場所に行き行って発表をしました。1週間に2回ライティングの課題があり、3つのトピックから自由に選んで文章を書く必要があるとともに、課題ごとに求められる分量が増えたので、文章を考える能力と言い回しを考える能力が少し上がりました。リスニングの授業では、Z世代と関係のある社会的ニュースを題材に取り上げられたことで、理解しやすく問題を解くことができました。

2 派遣先での生活（滞在形態、海外での生活や現地の人との交流を通じて印象に残ったこと等）について、詳しく書くこと（400字以上）

実際にハワイに住んでいる人々と交流し会話したり、ハワイ大学の学生とのインターチェンジやインタビュー、NICEprogram で知り合った海外の学生と交流し、最も印象に残ったことは積極性とやさしさです。ハワイ大学の学生や現地の人にインタビューを申し込んだ時に、断られることなく、むしろ積極的に質問について聞かれたり、パーソナリティについての質問をされ、ずっと会話が続けました。日本だと体験できないようなインタビューだったのでとても印象に残っています。インターチェンジをした時もハワイ大学の学生は日本人、韓国人の学生が話に詰まったり話す内容が無くなった時でも、他の質問を投げかけてくれて、そこから話の展開が広がり、いろんな話を聞くことができました。道に迷った時やどのバスに乗ったらいいか分からなくなったとき、近くにいた現地の人が困っていた姿を見てやさしさで声をかけてくれ、助けてくれたことも印象的でした。人々の積極性や、やさしさ以外にも日本での生活と違う部分も多く、バスではスーツケースを持って乗れない事や到着予定時間より早く来てしまうこと、運転手の勤務時間によっては途中のバスストップで降ろされたり、日本ではあまりない習慣で印象に残りました。

3 研修を振り返って

(1) 海外研修を通じて成長したこと、感じたこと、得たことを研修前の意識と比べて書くこと (400字以上)

海外研修を通して自分の性格に大きな成長を感じました。研修前は自分から行動することは少なく、何かわからないことがあっても自分ですべて解決しようとしていたり、知ってる人にしか聞けなかったことがおおくありましたが、研修期間中分からなくなったら現地の人に聞いたり、自分の意見を通せるようになり積極性がでてきたことが一番の変化です。行動の変化としても、ハワイにいる間、毎日クラスメイトと買い物に行ったりビーチに行ったり、アウトドア志向に代わり、今までより遥かに活動的になりました。ハワイ大学での学習や他大学の学生、韓国の学生との交流を通して、改めて英語はコミュニケーションツールであり、英語というものがゴールではないと感じました。日本で英語学習をしている時も頭では理解しつつ、どこかで英語がゴールになってしまっていたと思いました。大学の授業では、ハワイの歴史やZ世代、SNSなどについて意見交換するときに、歴史のバックグラウンドやSNSについての知識が薄いと英語は分かっても会話が弾まないことがあり、様々な知識や情報を取り入れておく必要性を感じました。また、日本についての知識が海外の学生より少なかったのも、逆に日本のことを教えてもらってしまい、自分の国について何も知らないと感じました。しかし、研修先がハワイだったこともあり、自分の英語が相手に伝わらないこともなく、言いたいことを伝えられたり、自分がやって欲しいことをやってもらえたりしたことで、自分の英語力に自信を得ました。研修が始まる前からネイティブ教員との会話を授業内外問わず続けてきて、実際に国をまたいで伝わるか不安でしたが、努力を続けたおかげで英語に困らず生活出来ました。

(2) (1) を今後の学生生活や将来にどう活かしていきたいか、詳しく書くこと (400字以上)

これからの学生生活では、ただ英語を英語として学ぶのではなく、様々な知識や情報を取り入れ、それをどのように活用し、英語と組み合わせるべきかを考えながら生活しようと思いました。広く知識を持つことで、意外なところから話題が展開され発展していくことができるので、これからはニュースを見たり、今までやってきたこと以外の努力をし、生活に活かしたいと思いました。また、英語をよりコミュニケーションツールとして使うために、いろいろなトピックを英語で話をしたり、英文を読んだりして、レベルを上げるために活かしたいと思いました。研修によって積極的になれたので、好奇心のような感情で様々なことに挑戦して、たくさんのことを学び、将来的に何かにつなげ役立てたいです。何につながるか分からないからやらないのではなく、どのように活用して役立てるかを考えながら、学生生活で英語を学ぼうと思いました。自分が住んでいる日本という国について知らないことが多く、会話に困ったこともあるので、自分の生きている国のことくらい自信をもって答えられるくらい日本のことを知り、英語で説明することで異文化交流に活かしたいと考えました。

海外研修成果報告書

研修先国および研修機関等： ウーロンゴン大学（オーストラリア）

研修期間： 2024年2月17日（土）～ 2024年3月2日（土）

1 派遣先で学習した内容（授業内容や視察内容）について、詳しく書くこと（400字以上）

まず初めに、毎日午前中には **English Class** がありました。この授業では、様々な **Activity** を使用した授業方法について学ぶことができました。具体的には、自分自身で実際にその **Activity** を行い、内容を理解したうえで、それぞれの **Activity** が生徒にどのような影響を与えるのか、メリット・デメリットについて考え、全体でディスカッションしたり考えたりしました。その中で、自分が今までやったことがあった **Activity** でも、やり方によって与える影響が違って来たり、日本語ではやったことあるけれど英語でもできる **Activity** があることに気づいたり、様々な発見がありました。午前の授業が終わった後、午後の授業では、発音練習や演技を交えたコミュニケーション活動、音楽を使用した教授法、ICT 活用方法などについての授業がありました。発音の授業では、専門的な内容について触れ自分自身の発音の練習をすることができました。演技を交えたコミュニケーション活動は座って授業を受けるのではなく、**Acting** をして体を動かしながら英語でのコミュニケーションをする大切さについて学ぶことができました。そして、音楽・ICT を活用した教授法では、それぞれのメリット・デメリットについて理解し、どのような場面に適切な教授法なのかなどを学ぶことができました。

3月27日には **Smith's Hill High School** の日本語の授業の見学に行きました。こちらの学校はウーロンゴンにある進学校で、日本語の授業は日本人教師が行っていました。生徒たちのレベルの高さに驚き、それに適切な授業を工夫して行っている先生の技術や努力に驚きました。日本語の授業ではなかなか見られない、英語の授業のような **Activity** を中心に利用した授業でした。見学した中学3年生が選択授業で日本語のクラスを多くの生徒が履修していて、日本語に興味をもっている生徒が多いことに感動しました。

2週目では、他大学の学生と授業を受けるクラスがありました。そこでは、発音についてやオーストラリア英語、オーストラリアの動物、品詞についての授業を受けました。3日間のみでしたが、他大学の学生と一緒に授業を受けることができ、多くのコミュニケーションが取れたので良い時間だったと思います。最終日には、**Symbio Wildlife Zoo** に行き、オーストラリアの動物たちを実際に見て、事前に学んだことを先生と確認しながら動物園を回りました。短い時間でしたが、この最終日でまた良い思い出を作ることができました。

2 派遣先での生活（滞在形態、海外での生活や現地の人との交流を通じて印象に残ったこと等）について、詳しく書くこと（400字以上）

この海外研修では、ホストファミリーと2週間を過ごしました。最初は不安と緊張でいっぱいでしたが、優しく歓迎してくださって、毎日楽しく過ごすことができました。私のホストマザーが中国の方で同じアジア人として様々なお話で共通点があったり、共感することができたりとコミュニケーションを楽しくとることができました。また、ホストファミリー全員が自分の英語力に合わせてゆっくり話してくれたり、様々な言葉を教えてくれたりしました。2週間過ごす中で、ホストファミリーの8歳の男の子の学校の授業参観に行ける日があり、お誘いを受けて見学しに行くことができました。日本の小学校との違いや先生方の工夫について学ぶことができました。研修以外に学校現場に行くことができるとは思っていなかったのも、良い経験で印象に残りました。

オーストラリアに行った時期が夏ということもあって、ウーロンゴンにあるきれいなビーチに毎日のように行く現地の方々を見かけました。また、現地の方々は **BBQ** を好んでするというので、公園に無料の **BBQ** 場があったり、コーヒーが好きなオーストラリア人のための多くのカフェがあったりと、現地の方に適切な施設が備えられていてとても良い環境だと思いました。

また、お店やバス・電車、道端で人と会うときは **Hello, Hi, How are you?** といった挨拶が当たり前で、距離感が近くフレンドリーでとても良い人間関係を築ける環境でした。日本でもお店などであいさつはしますが「いらっしゃいませ」「ありがとうございました。」といった堅い言葉なので、海外では日本よりもよりフレンドリーな言葉でコミュニケーションをとっている場面を経験することができて良かったです。

3 研修を振り返って

(1) 海外研修を通じて成長したこと、感じたこと、得たことを研修前の意識と比べて書くこと (400 字以上)

私自身一番成長したことは、英語力だと思います。2 週間と短い期間でしたが、実際に英語のみの環境や英語を話さないといけない状況に自分を持って行ったので、常に英語で考え、英語で話す、という毎日で積極的に話せるようになり、自然と英語が出てくるようになりました。また、私が自分の英語力が少し伸びたことに気づいたのは、ホストファミリーの 5 歳と 8 歳の女の子と男の子と毎日遊んでいて、遊ぶたびに内容を理解できていった時です。小さい子供は、大人よりもより明確ではっきり、そして多く話すのでコミュニケーションをとるにはとてもよかったです。研修に行く前は基礎的な文法や語彙を利用してコミュニケーションをとっていましたが、研修中では、発音に気をつけながら話したり、ネイティブの方々の話し方を真似してコミュニケーションをとってみたいと思いました。このことにより英語でのコミュニケーションを楽しむことができました。

また、フレンドリーに人と話すことができました。私はもともと人見知りで、自分から積極的に話したり知らない人と話したりすることが苦手でしたが、オーストラリアで多くの人と話していく中で心を開いて積極的に話すことができました。そして、私は、この研修で積極的に話すことができ、ネイティブの方々が実際に使っている語彙や文を自分でも使い、前の自分の英語力よりも高い英語力とコミュニケーション能力を得ることができたのではないかと思います。

(2) (1) を今後の学生生活や将来にどう活かしていきたいか、詳しく書くこと (400 字以上)

あと 1 年しか残っていない学校生活では、授業中のディスカッションや英語でのコミュニケーションをよりレベルの高い語彙力で行い、その中でもまだまだ課題があるので、勉強もしながら実際に英語を話していくことを忘れず、自分自身を英語の環境に置くことを意識しながら学習していきたいと思っています。また、今年も教員採用試験があるので、この研修で経験した事、学んだことを活かせるように実践したり、英語の面接に向けてより高い英語力をつけられるよう積極的に大学のネイティブの先生方とコミュニケーションを取り英語を話すことに自分自身を慣れさせ、面接のときに聞かれてもよいように研修のことや経験した事を詳しく話せるよう整理して説明できるようにしたいです。

そして、将来、教員になった際には、自分が海外研修で経験したことはもちろん、学んだ教授法を駆使して工夫して生徒に適切な授業を行えられるようにしていきたいと思っています。正直ネイティブではない人が英語を教えることになるので不安や心配が常にあると思いますが、この研修では短い期間で多くのことを一気に吸収することができて自分のためになった研修だったので、経験したことを無駄にせず、生徒に良い英語の学習を提供できるようにしたいです。また、海外に実際に行くことは英語学習者にとってとても良いことだと改めて知ることができたので、グローバル社会で生きる人材に生徒を育成できる教師になることを目標として生徒にしっかり伝えられるようにしたいです。

以上

海外研修成果報告書

研修先国および研修機関等： 北京語言大学（中国）

研修期間： 2023年8月1日（火）～ 2023年8月30日（水）

1 派遣先で学習した内容（授業内容や視察内容）について、詳しく書くこと（400字以上）

日本の中国語の授業では習わないような、実践的な中国語を学ぶことが出来ました。特に、ビジネス系の中国語の授業では名刺交換の実践や、就職活動の際にどのような面接をするか、などの中国語を実際に学生同士でコミュニケーションを取りながら、授業を行っていました。私自身、中国語圏で就職したいという気持ちがあるので、とても良い体験になりました。また、授業の中でカンフー映画や中国の歴史、風景、世界遺産などがまとめられた動画を見る機会があり、中国語以外にも中国の文化を知ることが出来ました。中国語の文章や単語を読んで発音をするという日本と似ている授業もありましたが、単語の説明も文法の説明も全てが中国語だったので、やはり留学にした学生だけが味わえる良い体験ができたと思いました。

2 派遣先での生活（滞在形態、海外での生活や現地の人との交流を通じて印象に残ったこと等）について、詳しく書くこと（400字以上）

現金が思った以上に活躍しましたが、一部のお店や寮の中にある洗濯機が、現金もカードも使えずスマホ決済のみで対応していたため、正直困りました。私は中国のSIMカードを購入しなかったため、中国の電話番号が無く銀行カードを作ることが出来なかったことから、スマホ決済が出来ずとても不便でした。食事面では日本で見たことのない食べ物が沢山あり、見ているだけでもとても楽しかったです。私は勇気があるので、ウシガエルやザリガニなど、日本人が食べない様な食べ物を食べてみましたが、どれも本当にとっても美味しかったです。また、自炊の文化が無く、台湾留学の時の様に毎日学食を利用したり、外食をしながら生活していました。

3 研修を振り返って

(1) 海外研修を通じて成長したこと、感じたこと、得たことを研修前の意識と比べて書くこと (400 字以上)

今回の海外研修を振り返って、初めての海外、初めての留学という友達の中国語の語学力が、日に日にとっても上がっているのが目に見えて分かって、凄いなと感じました。一方で、私自身全く成長を感じられることができず、挫けそうになりました。その時に、友達から中国語の語学力が落ちてないから、何も苦労だと感じないだけ、大丈夫だよ、と言ってもらえて、とても嬉しかったです。今回の留学は、台湾留学よりも周りの人たちにとっても恵まれ、もの凄く楽しい思い出を沢山作ることができたので、本当に良かったです。ほとんど日本人の友達と一緒にいたので、台湾留学に比べて、生活している中で中国語を使う頻度は減っていたかな、と感じています。ですが、中国語を本気で学びに来ている日本人が多かったのも、日本人同士の会話で中国語を沢山使って生活をし、そのおかげで中国語漬けの生活が出来て本当に良かったです。

(2) (1) を今後の学生生活や将来にどう活かしていきたいか、詳しく書くこと (400 字以上)

私にとって今回の留学は 2 回目の留学でしたが、本当に良い体験ができたと思います。特に、海外ならではの面白い体験や、不便なところをまた感じる事が出来て本当に楽しかったし、やっぱり私は日本よりも海外の方が好きだなと感じました。留学先で社会人のお姉さんが 1 ヶ月間の中国留学に来ていると教えてくれたので、もし機会があったら、就職をした後でも留学に行きたいと思っています。また、学生の方が長期の旅行に行きやすいと思うので、大学を卒業するまでには必ずもう一度中国に行って、行きたかったのに行けなかったところや、まだ行ったことのないところに行きたいと思っています。私は他の人と比べると適応能力がある方だと思っているので、将来海外で仕事をする事になったとしても 2 度の留学経験を思い出しながら、楽しく自分らしく生きて行きたいと思いました。

以 上

海外研修成果報告書

研修先国および研修機関等： 東呉大学（台湾）

研修期間： 2024年2月20日（火）～ 2024年2月26日（月）

1 派遣先で学習した内容（授業内容や視察内容）について、詳しく書くこと（400字以上）

台湾では主に使われている中国語だけでなく、台湾で古くから使われている台湾語や台湾の民族が使っている多くの言語を学んだ。台湾では、クレオールと呼ばれる人々の交流によって生まれた言語が存在しており、様々な国の言葉が混ざった言語で、中には半分以上が日本語由来でできている言語もあった。また、1960年代に方言を禁止し中国語を強制させた期間があったが、20年ほどで解除され2001年からは「郷土言語」が必修となった。

また、台湾の素食では、肉や魚を食べない料理があることを学んだ。「素食」と書いてあるが、決して簡素や質素といった意味ではなく、「菜食」のことで野菜を使用した料理のことであった。素食を食べる理由としては、健康や願掛け、宗教などの様々な理由がある。授業後の昼食時には、実際に素食を体験するために、素食のお弁当とコンビニで販売している料理を食べた。

台湾の文化では、旧暦のお正月を祝う「春節」や七夕など日本にもあるイベントをどのように祝うにか、どのように過ごすのかを学んだ。授業内で春節に飾る「春聯」を実際に書く体験をした。「春聯」とは、春節に扉や柱などに「福」や「春」と書かれている赤い紙を貼る文化のことである。一文字だけでなく、四字熟語を組み合わせるものもあり、それぞれ財産の増加や毎日お金が入ってきてほしいなど種類ごとに意味が違う。また、日本のお正月の飾りは、お正月が終わるとなくなってしまうが、台湾の春聯は、1年間貼って翌年の春節時に貼り直すといった違いがあった。

2 派遣先での生活（滞在形態、海外での生活や現地の人との交流を通じて印象に残ったこと等）について、詳しく書くこと（400字以上）

今回の研修では、2人1部屋のホテルで生活した。1週間という短い期間だったので、特に困ることはなかったが、日本との違いを感じたのは台湾のトイレだ。日本は各個室にトイレトーパーがついているが、台湾では入口付近にあるトイレトーパーを必要な分だけ取るという方式だった。また、一部の台湾のトイレは配管が細いため、トイレトーパーを流さず、横に置かれているゴミ箱に捨てるという違いもあった。

現地では、日本人観光客が多いせいか、日本語表記のものも多かった。夜市やレストランの従業員も「こんにちは」や「おいしいよ」など簡単な言葉を話していた。大学では、東呉大学の日本語学科3年生の4人と3日間を共に過ごした。学生さんたちは日本語をとて流暢に話していて、日本にとて興味を持ってることが感じられた。大学の放課後には、多くのおすすめの場所を紹介してもらい、買い物をしたり、夜ご飯を一緒に食べた。また、よく使う中国語の発音や漢字を覚えてもらうことで、日常的な会話の勉強にもなり、楽しめた。

3 研修を振り返って

(1) 海外研修を通じて成長したこと、感じたこと、得たことを研修前の意識と比べて書くこと（400字以上）

研修前、私は中国語がまだまだで、聞く力も話す力もなく「今回の研修で学べる」と軽い気持ちだった。そして、実際に台湾に行き、自分の知る単語の数が少なく、会話の文法が曖昧なことを改めて感じた。また、現地の人達は、一つも単語が聞き取れないくらい、話すスピードが速かった。しかし、聞くことができないからと諦めてしまえば一生中国語を身に着けられないと思い、文の中で一つでも知ってる単語を抜き取ることを意識したことで、聞いているうちに文の中の何個かの単語を聞き取ることができるようになった。ここから、明海大学で教わる教科書の内容だけでは、自信をもって中国語を話せるとは言えないので、もっと自分から学ぶ意識を持つことと大学の授業以外の日常的に使える言葉を学ぶことが大切だと感じた。また、東呉大学の学生さんたちが日本語を話し、私たちと交流する姿を見て、自分の母国語を話してもらって嬉しさを感じ、言語力の向上心を得た。

私は元々、食わず嫌いなどころがあり、日本の食べ物でも挑戦せずに見た目で決めつけて食べないことが多かった。そんな自分を変えるべく、たくさんのもを食べるというのが目標だった。自分の苦手な貝類も、食べたことない新しいものも、食べてみることで克服できたし、現地の学生さんにおすすめと言われたものもとても美味しかった。中には苦手な食べ物もあったが、まず食べてみるという思考が変わった。

(2) (1) を今後の学生生活や将来にどう活かしていきたいか、詳しく書くこと（400字以上）

今回の研修で、見た目で判断せずに挑戦することが身についたので、食事だけにとどまらず、人間関係や学業面など何事にも挑戦していこうと思う。自分の語学力がどれぐらいなのかがはっきりとわかったので、まずは大学の授業以外の勉強を取り入れ、中国語検定や HSK を取得していく。そして、明海大学内にいる中国人の友達と話し、日常的な会話で中国語を使えるようにしていこうと思う。研修先で知った新しい勉強法として、中国語の音楽を聴いたり、中国語の映画やドラマを見ることで、まずは中国語を耳に慣らして同時に単語や文法を覚えていく。将来は、自分の身に着けた語学を活かした職種に就きたいが、今の自分では実現ができない。これから今より多くの努力が必要になると思うが、今回の研修がゴールではなく、スタートとなるように、台湾だけでなく中国の様々な場所に行ってみたい。また、語学だけでなく、その場所の文化や歴史を知っておくことで、現地の人たちと深い交流ができると思ったため、語学と並行して文化や歴史にも詳しくなりたい。

以上

海外研修成果報告書

研修先国および研修機関等： JTB シンガポール支店他（シンガポール）

研修期間： 2023年9月3日（日）～ 2023年9月9日（土）

1 派遣先で学習した内容（授業内容や視察内容）について、詳しく書くこと（400字以上）

今回のシンガポール研修では、シンガポールを拠点に活動する日本の企業や、現地の企業を訪問させて頂きました。まず向かったのは、シンガポールを拠点とする JTB シンガポール支店です。JTB は他者を圧倒する Global Network を目指しており、現に日本を含めたアジアで圧倒的な立場を保持しています。昔であれば、日本人が海外に旅行に行く時の旅行代理ビジネスで儲けられました。しかし、ネットの普及による需要の低下や海外諸国（東南アジアなど）の経済発展によって、海外から日本への旅行需要が増加しました。これからは日本国内への旅行代理ビジネスが成長するので、力を入れているとのことでした。つまりは、これから人口が伸びる国をマーケットにするとの話でした。1口に東南アジアと言っても、ベトナムやインドネシア、フィリピンなど国ごとに傾向が違うとのこと、どこでお金を使うのか、日本国内のどこを回るのか、などデータ分析をしているそうです。

また、3日目に訪問させていただいた、新潟アルビレックス CEO の難波さんの話には、とても感銘を受けました。難波さんは、海外に出るといふことに対する話をしてくれました。これから日本は人口が減り、国内市場の規模が縮小していきます。そうすると、海外経験、語学力がある人が有利になります。そのために海外に出て、語学を学ぶべきですが、そのためのモチベーション維持の秘訣や、打ちひしがれた時の対処法を教えてくださいました。将来の夢は解像度の高い夢を持つべき、という言葉がとても響き、自分の夢に対する考え方を大きく変えられました。

2 派遣先での生活（滞在形態、海外での生活や現地の人との交流を通じて印象に残ったこと等）について、詳しく書くこと（400字以上）

まず、今回の研修は私にとっては初めての海外生活だったため、日本との大きな違いに驚かされることが多かったです。もちろん、国によって違いはあるとは思いますが、海外の人々は概ね日本人よりも自由に生きている印象を持ちました。店の店員も日本の店員とは違って、普通にスマホをいじっていたり、客の目の前で店員同士で大きな声で会話をしたりしていました。日本でこんな接客をしたら、上司に怒られるか、客にクレームを言われたり、インターネットに晒されたりしてしまいます。礼儀正しさが日本の良さであるとも思いますが、日本は少し堅すぎるのではないかと思います。

また、シンガポールの公用語は、英語と中国語とマレー語などです。街行く人々は、中国語で会話をしているのに、店の看板や標識は英語で書いてありとても不思議な印象を持ちました。日本ではまずありえない光景なので、より進んだグローバル社会を見たような気がしました。

さらに、シンガポールはキャッシュレス化が進んだ社会と聞いていましたが、意外と現金しか使えない店や、自動販売機もあり、ハイテクとアナログが非常に入り組んだ社会であると感じました。

3 研修を振り返って

(1) 海外研修を通じて成長したこと、感じたこと、得たことを研修前の意識と比べて書くこと (400 字以上)

今回の海外研修を通じて、語学力や海外経験の重要性を認識させられました。私は海外での生活を少しなめていた気がします。今回の研修では、海外に行ったことがある友達や先生と一緒にいたので生活できましたが、もし1人だったらとても厳しかったと思います。もし、海外に行った経験が1度もないまま就職して、海外出張に行くことになったらとても苦勞すると感じました。荷物のパッキングの仕方、空港の税関の通り方、お金の両替の仕方、海外での移動手段等、今回これらを学ぶことができたのはとても良い経験になったと感じます。また、私は英語は文章であれば少し理解することができます。しかし、海外で現地の人々と英語で会話をすると、思っていた以上に聞き取れず、単語を出すことすらできませんでした。英語のテストができることと、英語で話すことができるというのは、全く別のスキルであると感じました。研修に行く前に比べて、語学学習の重要性を認識し、英語や中国語での会話の練習の重要性を身に染みて感じました。研修中、自分の英語が伝わらなく悔しい思いを何度もしましたが、最終日の自由行動時間で、英語が通じた瞬間があり、とてもうれしく感じました。

(2) (1) を今後の学生生活や将来にどう活かしていきたいか、詳しく書くこと (400 字以上)

今回の研修を通じて、語学学習のモチベーションがとても上がりました。新潟アルビレックスの難波さんの話にもあった通り、これからの社会では語学力がとても重要になります。これからの社会で必要となる人間となるためには、今の学習がとても重要だと感じました。実際にシンガポールから帰ってきてから、約半月ほぼ毎日英語の学習をしています。シンガポールで自分の英語が通じず、悔しい思いをした経験をバネに、いつか海外の人と不自由なく話せるようになるために、学習を続けていきたいと思いました。また、自分の将来のために、挑戦をしようと思いました。難波さんは「大きな目標を持って。挑戦自体が財産になる。」と仰っていました。この言葉を信じて、より大きな、解像度の高い目標を持ち、目標に向かって努力しようと感じました。直近では、TOEIC を受けることにし、卒業までに 700 点を目指すことにしています。

今回の研修によって、少し海外に行くための経験が出来ました。これから、個人的でも海外に行き、様々な体験をして、人間的に成長したいと思います。

以上

海外研修成果報告書

研修先国および研修機関等： ウーロンゴン大学（オーストラリア）

研修期間： 2024年2月17日（土） ～ 2024年3月2日（土）

1 派遣先で学習した内容（授業内容や視察内容）について、詳しく書くこと（400字以上）

今回派遣先で学習したことは英語力の向上はもちろん、英語の教授法をさまざまな視点から学ぶことができました。その中でも第二言語習得において、視覚や聴覚的にアクティビティにICTを取り入れること、感覚で覚えるために様々なゲームを取り入れることによって、生徒のモチベーションに繋げることができると感じました。その活動の中で文法や発音などで課題を見つけ、生徒のニーズに合わせた授業ができることも改めて学ぶことができました。大学での授業の他にも、オーストラリアの高校における日本語授業の見学では、さまざまな文化背景のある生徒による、第二言語、第三言語習得の実践的な方法を見ることができました。また、オーストラリアの小学校で折り紙の体験授業も行うことができ、生徒の興味関心を広げる方法や日本にどのくらい関心があるかを学ぶことができました。また、教授法以外にも、コミュニケーション英語をホームステイから学ぶことができました。家族の一員として過ごす中で、生活リズムや食生活の文化の違い、その中におけるコミュニケーションの方法など、生活全般を通して自分の英語力をどのように運用するのかを学ぶことができました。普段の授業や英語学習において学ぶことができない、ローカルな英語やオーストラリアならではの方言とその意味について学ぶことができ、とても興味を広げることができました。

2 派遣先での生活（滞在形態、海外での生活や現地の人との交流を通じて印象に残ったこと等）について、詳しく書くこと（400字以上）

派遣先での生活を通して、積極性が大切だと感じました。ホームステイを通して、自分の意見や感情を積極的に言うことが互いに分かり合うことのなかで、重要であることを改めて認識しました。言語も文化の違う人同士では、コミュニケーションを行う中ですれ違いや勘違いが起こりうると思います。そのため、わからないことや自分のその都度の感情を明確に表現することが重要だと再認識しました。そのコミュニケーションの中で、ホストファミリーと私との間で共通点を多く見つけ、会話を膨らませ、休日には一緒に出かけることもでき、楽しさで思い出を埋めることができました。また、生活様式、言語や文化の違いなどに関して積極的に質問や疑問を投げかけることによって、互いにより深い理解を得る努力を行うことができました。言語や文化が異なる相手でも、互いに興味を持ち、理解し合いたいと感じる姿勢を保つことが、より良いコミュニケーションのために必要であると感じました。

3 研修を振り返って

(1) 海外研修を通じて成長したこと、感じたこと、得たことを研修前の意識と比べて書くこと (400字以上)

海外研修を通して英語力の向上はもちろん、実践的な英語コミュニケーションを通して、英語教授法を改めて学ぶことができました。研修前は、日本語を母語とする生徒への英語教授法だけに重点を当てていましたが、今後は様々な背景のある生徒に対しても、英語の授業を行うことと、その重要性を改めて気づくことができました。生徒のニーズは地域、学校、各クラス、個人とで様々あります。そのため、英語教授法も様々な視点から考えて、行うべきだと考えました。また日本でも、今後は英語の重要性が拡大していくと考えます。そのため、自分も含めて、多くの人が英語に興味関心を持ち、英語を用いてコミュニケーションができるようになるべきだと考えます。つまり、研修を通して英語でコミュニケーションが今後はより重要視されると考えるため、第二言語の習得をオーストラリアと同じように積極的に行い、支援していくべきということを学びました。また言語教育のみならず、多文化理解の教育も同じように重要だと感じました。オーストラリアでは他民族が共存しているため、さまざまな文化に触れ合うことが日常で多くあります。しかし、日本ではそのような機会が少ないため、異文化を知る教育が必要だと感じました。

(2) (1) を今後の学生生活や将来にどう活かしていきたいか、詳しく書くこと (400字以上)

今回の海外研修で学んだことを将来、日本で英語教諭になった時に活かしていきたいです。今回の研修で英語を生徒に教える上で、日本で学んでいる英語教授法だけでは不十分なことがわかった為、今回学んだ英語教授法、特に教室にコンテキストのある環境づくりを重視した英語教授法を取り入れることで、日本の英語教育をより良いものにできると考えています。そういった英語教授法を取り入れ、私らしさのある授業と生徒が英語が楽しいと思えるような授業ができるように、今回の研修を活かしていきたいです。また教授法に加えて自分の英語力の向上にも励み、積極的に英語コミュニケーションを行っていきたいです。英語を通して、多文化の理解を深めて自分が国際社会で活躍できる人材になりたいです。また、今回の研修で得た英語力や教職での知識を活用して、周囲にも広め、良い影響を与えられるようになりたいです。そして、教員になったときには生徒のお手本になれるような人になりたいと思います。

以上

海外研修成果報告書

研修先国および研修機関等： ハワイ大学マノア校（アメリカ）

研修期間： 2023年8月27日（日）～ 2023年9月17日（日）

1 派遣先で学習した内容（授業内容や視察内容）について、詳しく書くこと（400字以上）

平日の月曜日から木曜日は教室で授業を行いました。基本的にはスピーキングメインの授業内容で、授業中は単語を調べたり、辞書を引くことは禁止で、自分の知っている単語をうまくつなげて相手とコミュニケーションをはかることが多かったです。もちろん、クラスの中では日本語は禁止で、英語のみを使った授業でした。授業内容は主に日常生活を送るために必要な英語の勉強が多く、お店での注文の際に使う単語や文章を学習したり、聞き取りづらい文章、単語のリスニングなどを行いました。5回ほどインターチェンジという、現地の学生と交流する時間もあり、相手に質問をしたり、逆に質問をされたりして交流を深めることが出来ました。金曜日はクラスでミュージアムやショッピングセンターなどに行き、遊びの中で英語を使ったり、会話をすることで英語の楽しさを学ぶ時間もありました。最終日にはクラスの友達や先生に向けて5分間スピーチを行い、3週間の英語学習の成果を披露する時間がありました。

2 派遣先での生活（滞在形態、海外での生活や現地の人との交流を通じて印象に残ったこと等）について、詳しく書くこと（400字以上）

現地ではフレアホールという大学の近くの学生寮に滞在しました。寮には食堂がついていて、食文化の違いを感じました。ハワイでの食事はハンバーガーやピザなどのジャンクフードが主な主食で現地の人は、その食事にジュースを飲んでいる人が多く、日本との違いを感じました。現地の人たちは優しい人が多く、道を聞いた時などに親身になって教えてくれたり、道を渡ろうとしたときに歩行者優先で渡らせてくれる人が多く、日本人との違いを感じました。

また、生活をする中で日本との物価の違いに驚きました。お土産や外食の際の値段が高いことはもちろんですが、特に驚いたのは水の値段です。日本では自動販売機で100円ほどなのですが、ハワイでは日本円で450円ほどして、いかにハワイの物価が高いかを知る良い経験になりました。また、外食という面では、フードコートのラーメンが一杯2,000円～3,000円もしており、日本で安い値段で外食をできていることに感動しました。全体を通じて、日本との人間性の違いや、物価やモノの価値の違いを身をもって体験することが出来ました。

3 研修を振り返って

(1) 海外研修を通じて成長したこと、感じたこと、得たことを研修前の意識と比べて書くこと (400 字以上)

今回の海外研修を通して、英語に対して苦手意識が少なくなりました。研修前は英語がとても苦手で、文法や単語などを覚えたりしなければ、ハワイではコミュニケーションを取ることができないと思っていました。しかし、実際に現地に行ってみると意外とコミュニケーションを取ることが出来て、もともと自分の英語力に自信がありませんでしたが、少し自信を持つことが出来ました。それと同時に、もっと英語が話せていたらもっと現地ででの生活で苦労せずに生活できただろうし、さらに楽しく過ごせたのだらうなと感じました。

また、このハワイ研修の中で最も成長したと感じたことは、コミュニケーション能力です。出発前のコミュニケーション能力はもともと低い方ではなかったとは思いますが、言葉が通じない現地の人でも積極的に会話をする事で同じ楽しさを共有したり、交流し、出発前よりもコミュニケーション能力が向上したと思います。また、現地の人と話ることが好きな人が多かったというのもコミュニケーション能力の向上につながったと思います。

(2) (1) を今後の学生生活や将来にどう活かしていきたいか、詳しく書くこと (400 字以上)

今後の学校生活のなかで英語力の向上を図っていききたいと思います。上記に記したように今回の海外研修で英語に対して苦手意識がなくなってきたので、まずは中学英語から復習を行い、最終的には TOEIC に挑戦して将来の就職活動に活かせるようにしていきたいと思いました。そのためにまずは、事後学習の TOEIC 対策講義にしっかりと参加をし、今から少しずつ学習を進めていこうと思いました。また、現地で培ったコミュニケーション能力は就職活動に役に立つと思いました。多くの人と就活について話したり、幅広いところから情報を収集することで、より良い就職活動につなげていきたいと感じました。先生やキャリアサポートセンターの方々、就活コーチたちとしっかりと情報を共有していきたいです。コミュニケーション能力は会社に入ってからもしっかり生かせる場面も多いと思いますし、英語ができる人材というのは企業にとって貴重な人材になると思うので、この 2 つを残りの大学生活でさらに伸ばしていきたい、自分の武器にしていきたいと思いました。

以上

海外研修成果報告書

研修先国および研修機関等： JTB シンガポール支店他（シンガポール）
研修期間： 2023年9月3日（日）～ 2023年9月9日（土）
<p>1 派遣先で学習した内容（授業内容や視察内容）について、詳しく書くこと（400字以上）</p> <p>研修の概要は、前学期の授業15回を通してシンガポールの歴史や訪問企業について調べ、実際に訪問し、ディスカッション等を通じて学びを深めるという内容だった。訪問企業は①JTB、②FoodBank、③アルビレックス新潟、④Wellnessy Pte. Ltd.（敬称略）の4社であり、②のFoodBankのみ英語、その他は日本語の対応だった。本来はJETROやGrab等、その他の企業も訪問する予定だったが、スケジュールの都合上この4社のみとなった。また、事前に調べていた企業が直前になって訪問できなくなった事もあり、我々が事前に調べ、プレゼンテーションを行えたのは①JTBと②FoodBankの2社のみだった。基本的に午前中に企業を訪問し、午後は自由時間といったスケジュールだった。企業訪問の内容としては、企業の方から事業を説明していただいた後に、我々のプレゼンテーション、質疑応答を行うという流れだった。企業によっては、我々のプレゼンテーションが無い訪問先や、企業に関することだけでなく、シンガポール全体への見解を話していただいた所も存在した。企業訪問の後は自由時間だったが、一概にただ観光するというだけは無かった。観光名所を訪問しても、事前に調べていた情報に基づき、シンガポールの歴史的・経済的背景を仲間たちと考察し、シンガポールという国への理解を深めるよう努めた。</p>
<p>2 派遣先での生活（滞在形態、海外での生活や現地の人との交流を通じて印象に残ったこと等）について、詳しく書くこと（400字以上）</p> <p>研修先の生活では、「アジア」を深く感じた。自分はアジアに住んでいるため、今までの海外のイメージは、どうしてもヨーロッパやアメリカ等のイメージに引っ張られていた部分があった。しかし、今回は同じアジア圏の国に訪問したので、想像していたよりも親近感が湧く生活感だった。シンガポールは中華系の人々が多く、人という面では日本とのギャップが他の国に比べて少なかった。強いて言えば、我々が観光客という事もあってか、道行く人はとても親切だった点は印象に残っている。また、食生活も日本とほぼ変わらないといっても過言ではなく、見知ったアジア系の料理が大量にあり、海外特有の、日本食が恋しいと感じた瞬間は無かった。会話は基本的に英語で会話をしていたのだが、文法や発音に違和感を覚える事も多く存在した。これまでも海外に行ったことはあったが、米国や、観光地がメインだったので、比較的聞き取りやすい英語に触れる機会が多かった。だが、今回は通称"シングリッシュ"と呼ばれるアジア系の訛りが強い英語だったため、慣れるのに時間がかかり、苦労した。だが、自分の英語も海外の人にはそう聞こえているのだと思うと、より多くの人に伝わりやすいよう、自己研鑽が必要だと気付く事が出来た。全体の生活を通じて、外国に行った、というより、同じアジア圏の別文化の国に行ったと肌で感じる機会が多かった。</p>

3 研修を振り返って

(1) 海外研修を通じて成長したこと、感じたこと、得たことを研修前の意識と比べて書くこと (400 字以上)

今回の海外研修を通じて、「海外で暮らすという事」という視点を肌で感じる事が出来、その経験は、研修前に抱いていた意識を大きく変える事が出来た。「社会人として海外働くという事」と「海外で生活するという事」の 2 点の視点から、考えの変化を述べていこうと思う。

まず、「社会人として海外で働くという事」についてだが、日本とは根本的に働き方が違うという事を学んだ。海外では、新人の挑戦が例え失敗でも評価される事が当たり前で、常に革新をしていきたいという考えの企業が多い。日本の出る杭が打たれる社会に慣れていて私は、企業の規模が大きくても革新を続けるという考えに感銘を受けたと共に、今後、自分はどの働き方について考え直す事が出来た。

次に、「海外で生活するという事」についてだが、海外で生活するとなると、必然的にその国の言語の習得が必要だと考えていた。今回訪問した国はシンガポールであり、中華系の方が多いので、英語よりも中国語がメインで話されていると考えていた。しかし、実際はほぼ英語で、私の英語力でも問題なく生活することができた。確かに、「英語は世界的にかなり強い言語で、英語が話せれば大体どの国でも生活できる」という事は以前から耳にしていた。だが、心の中では、そうは言っても基本はその国の言語がメインで、どうしても使えない場合は英語だろうと考えていた。しかし、今回の訪問で、英語の強さというものを再確認することができた。確かに、現地の方の発音や文法は完璧だったわけではないが、充分意味は理解できた事に加え、こちらの支離滅裂な文も意味が伝わった。この事から、ある程度の英語ができれば生活できると学んだと共に、英語への理解を更に深め、一定以上のコミュニケーションを取れるようになりたいと思った。

(2) (1) を今後の学生生活や将来にどう活かしていきたいか、詳しく書くこと (400 字以上)

(1) で得た学びを、以下の 2 点に活かしていきたいと思う。それは「何事にも挑戦していく」「英語力を上げる」という 2 点だ。

まず、「何事にも挑戦していく」という事についてだが、今回の研修で海外で働くには挑戦が必須、という事を学び、今後は海外で活躍する事を視野に入りたいと考えるようになった。私は今までも挑戦していなかったわけでは無いが、ある程度結果が予想されるものや、明確な目的がある挑戦しかしてこなかったと思う。挑戦してみたい事があったとしても、それによるメリット・デメリットをを考えてから行動していた。だが、海外で働くことを目標にする以上、より探究心を持って様々な挑戦する必要があると考えた。そして、例え失敗の確立が高くても、自分にとって価値があると考えたら挑戦するべきであり、「挑戦する事」自体に意味があると思えるようになった。この心境の変化を活かし、今後はより様々な事に挑戦していこうと思う。

次に、「英語力を上げる」という点についてだが、今回の研修を通じ、(1) で述べたが、英語の言語としての強さを感じた。そのため、より英語力を高めたいという想いが強まった。ただ英語を勉強するのではなく、実践の場でアウトプットしてみる事で、自分に何が出来て、何が足りないのかを再認識する事が出来た。今までは漠然と英語力を上げたいと思い、英語力を上げるための理論を勉強していたが、理論を理解していても目標達成に向けて完璧に行動出来ていたわけでは無かった。しかし、今回のアウトプットを通じて、理論を肌で感じる事が出来、より一層努力しようと思えるようになった。そして、この考え方を今後の英語学習に活かしていこうと思う。

以上

海外研修成果報告書

研修先国および研修機関等： JTB シンガポール支店他（シンガポール）

研修期間： 2024年2月25日（日）～ 2024年3月1日（金）

1 派遣先で学習した内容（授業内容や視察内容）について、詳しく書くこと（400字以上）

JTB シンガポール支店を訪問し、現地の日本人社員の方から JTB という企業についての概要をご説明いただいた後に、自分たちで用意した質問や疑問についてパワーポイントを用いてプレゼンを行い、フィードバックをいただきました。その中で、私はもし自分が JTB 社員だったらどういった JTB の旅行プランを提供するのか、ということ事前に考えて発表・フィードバックをいただきました。私の提案したプランはシンガポールへの学生の斡旋事業で、経済学的な理論やマーケティング戦略をもとに考えたプランを発表しました。その中で私の考えたプランに似たようなものが JTB に既にあり、実際に私の考えたプランも実現可能なプランだと知ることが出来ました。また、現地社員の方々と会話する中で実際にはどのようなプランがあり、どのくらいの需要があるのかも知ることが出来ました。JTB は日本にもありますが、シンガポール支店ならではのプランや働き方など自分の知らない国の企業の実態を知ることが出来ました。

2 派遣先での生活（滞在形態、海外での生活や現地の人との交流を通じて印象に残ったこと等）について、詳しく書くこと（400字以上）

現地ではホテルに滞在しました。シンガポールにはチップ文化がないので、日本のホテルと同じような感覚で滞在することが出来ました。また、ホテルは朝食がバイキングでパンやお米、うどんなどがあり、様々な国の人滞っているシンガポールならではの食文化だと感じました。シンガポールは日本の夏に気候感が似ており、湿度が高く、ジメジメとした気候でした。日用品や食料品は日本に比べて価格帯がやや高くなっているという印象を受けました。日本とシンガポールの大きな違いの一つとして、ごみ箱の多さが印象に残りました。シンガポールはポイ捨てなどの環境を破壊する行為に対して非常に厳しく、ポイ捨てに対しての罰金額が大きかったり、ポイ捨てを減らす政策の一つとして街中のいたるところにゴミ箱が設置してありました。しかし、日本のごみの種類によって分別するという習慣はなく、ごみの種類に関係なく大きなごみ箱にすべて捨てるのが可能となっていました。このように、シンガポールは環境を守ることにとても力を入れていると感じました。

3 研修を振り返って

(1) 海外研修を通じて成長したこと、感じたこと、得たことを研修前の意識と比べて書くこと (400字以上)

今回のシンガポール研修を通じて、日本との文化の違い、特に多くの人種が滞在しているシンガポールならではの工夫やビジネススタイルを感じました。そのように感じた点は、シンガポールの街並みです。シンガポールには、インドのような街並みのリトルインディアンや中国を意識したチャイナタウン、アラブのような街並みのアラブストリートと、実際にその国に行ったかのような感覚を味わえる外観や建物、食べ物があり、小さい国土を生かして一日ですべて回れるようなサイズ感の街があり、人種を問わず楽しめたり、故郷を思い出せるような工夫を感じました。もちろん独自の国の観光スポットもしっかりとあり、マリーナベイ・サンズやマーライオンなどシンボルとなるような建物や建造物があり、それをグッズ化することで利益を出していました。このように国土の狭いシンガポールという国を最大限生かした集客方法であったり、有名な観光スポットを生かした、ビジネススタイルを感じました。

(2) (1) を今後の学生生活や将来にどう活かしていきたいか、詳しく書くこと (400字以上)

上記の経験を生かして、今後の学生生活では、マーケティング戦略についてさらに学習を深めてみようと考えました。今までは教授の話聞いてレポートを出すという受動的な学習方法でマーケティングを勉強してきましたが、今後はなぜそのマーケティング戦略がいまの市場で生きているのか、ターゲット層はどこなのか等より深いところまで着目し、マーケティングについてより深い学習をして大学生活に還元していきたいと思います。また、マーケティングを深く学習するだけでなく、就職活動にも生かしていけると感じました。物事を客観的に観察し、どのような人物を企業が求めているのかなどを考えるには、分析する力が必要だと思うので、今回の経験を生かせると感じました。将来はよりグローバル社会になっていくと思うので、他国の人と上手くコミュニケーションを取り、文化の違いを認めて働いていく柔軟性を今回のシンガポール研修を通じて学ぶことが出来たので、将来に活かしていきたいと思います。

以上

海外研修成果報告書

研修先国および研修機関等： ハワイ大学マノア校（アメリカ）

研修期間： 2023年8月30日（木）～ 2023年9月6日（水）

1 派遣先で学習した内容（授業内容や視察内容）について、詳しく書くこと（400字以上）

今回の研修では多くのことを学んだが、中でも印象に残っていることはチャイナタウンの視察である。チャイナタウンと聞くと中国、中華のイメージが湧く。だが、実際に見ると思っていたより中国感がなく、レンガ造りで中国風の壁の装飾も無く、色もあまり鮮やかではない赤褐色の建物が多かった。私達はまず孫逸仙（Sun Yat-sen）メモリアル・パークから北西に進み、チャイナタウンに入っていった。入ってすぐは中国というより西部劇の街並みに似た雰囲気を感じた。だが、さらに北西に進むと今度は中国風の建物が少し増えた。ただ、中国風といっても色使いや装飾が欧米風な部分もあったりして、まさに異文化が混ざり合う街並みだった。街を巡る間、先生から様々なお話を聞いたが、日本にもある看板建築や擬洋風建築のお話が面白かった。この話を聞いてから改めて街を見ると、似たような特徴を持つ建物がたくさんあった。

看板建築は、道路に面した壁のみ装飾がきれいにされており、反対に道路に面していない壁が何も装飾が無かったり、配管が丸見えになっていたりすることから、建物が看板に似ていると感じた。日本は関東大震災で焼け野原になった街を復興させる過程で生まれた形式だが、ハワイも1886年から1900年の間に2度ほど火災が発生し、チャイナタウンのほぼ全ての土地が焼き尽くされてしまったそうなので、火事から復興するためにできるだけ早く活気ある街にしたかったため看板建築に似た建物が多くなったのだろう。

擬洋風建築は、形は中国風の瓦屋根だが色使いがどこの国かわからないような建物や、逆に色使いは中国風だが形は欧米風だったりどこの国とも言えない装飾があったりする建物の様子が擬洋風建築に似ていると感じた。日本は文明開化の時代に西洋に追いつくために、学校を建てようとした大工がヨーロッパの様式だけを真似た結果、和洋折衷なデザインの建物ができたと言われている。

また、19世紀後半、ヨーロッパ諸国は東アジアへと進出し、各地に居留地が置かれ、1843年開港直後の上海においては中国風の入母屋屋根をかけた江海関などの擬洋風的な建築が建てられていたと言われている。

ハワイの擬洋風建築は異文化交流が鍵となりそうだが、何がどう伝わってあのような街並みになったのか調べてみたい。

2 派遣先での生活（滞在形態、海外での生活や現地の人との交流を通じて印象に残ったこと等）について、詳しく書くこと（400字以上）

私は英語がほとんどわからないので、ハワイでの生活にかなり不安があった。しかし、実際は思っていたよりもずっと過ごしやすかった。なぜなら、現地の人々がどの人も優しくなったからである。ホテルのフロントの方はコインランドリーの場所を聞いた際、英語が苦手な私たちのために紙に地図を描いて教えてくれた。その後、地図を頼りにしてもたどり着けなかったが、通りかかったホテルスタッフがランドリーの場所を指さして教えてくれた。ホテル内のエレベーターでも居合わせた人が挨拶や軽い会話をしてくれた。特にこれは、日本にはあまりないことだと思う。お店でもすぐにカゴを持ってきてくれたり、会計の際もセント硬貨の使い方がわからないとき、一旦机に全部出すと必要なお金だけ取ってくれたり、とても親切にしてくれた。私はアメリカに対してどちらかというと「適当」や「大雑把」なイメージを持っていたため、中には大雑把な人もいたが、対応がかなり丁寧で驚いた。もともと研修前にハワイには「オハナ」という考え方があって学んでいた。それが実際どのような考え方なのかはよくわかっていなかった。だが前述の体験を通して、少しわかったような気がする。ハワイの人は見知らぬ人にもフレンドリーで親切な人が多く、困っているとまるで家族のようにすぐに手を差し伸べてくれた。おかげで私は言語や文化など日本と異なることばかりだったにも関わらず、気持ちよく1週間を過ごすことができた。

3 研修を振り返って

(1) 海外研修を通じて成長したこと、感じたこと、得たことを研修前の意識と比べて書くこと (400 字以上)

研修前はハワイは常夏の観光地で華やかなイメージしかなかったが、研修後は現地の意外な実情を知ることができた。まず、民族集結の歴史やそこから生まれた文化を知り、ハワイという土地で人々がどうやって生活し協力してきたかを知れた。異民族を認め、受け入れることでそれぞれの文化が混ざり合い、「オハナ」などの人のつながりを大事にする考えが生まれたと学んだ。そしてそれは現代までずっと浸透していると、現地で生活する中でも色濃く感じた。また、そんなハワイでも教育の有無や収入など様々な要因から格差社会が生じてしまったことや、ホームレスや薬物問題が発生している治安の悪い地域もあることなど、観光地のイメージとは程遠い一面も知ることができた。ハワイはただの観光地ではなかった。

今回の研修で、様々な文化や歴史、建築物に触れ、新しい事を学ぶ楽しさを改めて感じた。今までは建築に関してあまり自分から学ぼうとしていなかった。大学の授業以外は SNS などで建物の写真を見るくらいで、写真を見ても「すごい」「面白い」くらいにしかなかった。だが、この研修を通してただ見るのではなく、いつ、誰が、どのように造り、なぜそうしたのかなど、街や建物ができるまでのプロセスを知ってから、初めてそのものの本質を、そしてその地域にこれから必要なものを見つけられることができると学んだ。

(2) (1) を今後の学生生活や将来にどう活かしていきたいか、詳しく書くこと (400 字以上)

今回の研修で不動産に対する観察力を鍛えることができた。

これから大学でもっと専門的な分野を学んでいくが、教科書だけではきっと幅広く細部までは学び切れないと思う。なので、これまではしてこなかったが自主的に他の街に出向き、街並みを観察し、今まで学んだ事と照らし合わせる、新たなことを発見するなど、自分の足で現地調査を行い、さらに学びを深めたい。また、初めて海外へ行き、環境や文化など何もかもが違う場所の不動産事情を知るのには、新しい視点ばかりでとても勉強になった。加えて、報告書を書く際にチャイナタウンをもう一度振り返って調べ直す中で、中国や欧米の建築など日本以外の建築物にも興味が湧いた。そのため、他の国の不動産事情を調べたり、他国と日本を比較したりして、より良い住環境とはどういうものかを研究していきたい。

そして、私はまだ理想の住環境をつくる「発想力」が乏しいため、これからの大学生活で、前述したことに積極的に取り組み、いつか誰もが暮らしやすい住環境をつくれるようになりたい。

海外研修成果報告書

研修先国および研修機関等： ハワイ大学マノア校（アメリカ）

研修期間： 2023年8月28日（月）～ 2023年9月8日（金）

1 派遣先で学習した内容（授業内容や視察内容）について、詳しく書くこと（400字以上）

今回の研修で、私たちは、6つのハワイ大学での授業と、4つのホテル視察、1つの航空業の視察を行いました。ハワイ大学での授業では、ハワイのツーリズムと経済についてやハワイの文化、ハワイのホテル運営、ホスピタリティマーケティング、人材マネジメントについて、ハワイの伝統的な踊りであるフラダンスについて各講師からの授業を受けました。ホテル視察では、それぞれ、客室、レストラン、プライベートビーチ、プリンスワイキキではさらに宴会場、チャペルの見学をさせていただきました。同じ海沿いに建つホテルでも、お部屋のコンセプトやレイアウトひとつで部屋から見られる景色が全然違うことに驚きました。どのホテルでもお話していたのはレスポンシブル・ツーリズムについてでした。部屋から見られる美しい海や砂浜といった景観を守っていくためにホテルで働く人も、そして泊りに来る地元の人、観光客も一丸となって環境維持に取り組むということでした。日本ではホテルに置いてある水はペットボトルであったりするのに対し、ハワイはよりSDGsへの取り組みがされていると感じたのと同時に、観光客が多い国だからこそ現地の人にまかせっきりの対策ではなく、訪れる人も責任を持つということが大事なのだと感じました。

2 派遣先での生活（滞在形態、海外での生活や現地の人との交流を通じて印象に残ったこと等）について、詳しく書くこと（400字以上）

研修期間中の滞在は、前半はハワイ大学の寮、後半はワイキキにあるホテルに、どちらも2人部屋で宿泊しました。寮ではキッチンや調理器具が備わったお部屋だったため、日本から持ち寄った食材やスーパーで購入したもので調理をしました。ホテル視察に行った日本人観光客が多く宿泊するホテルは、シャワーヘッドが外せる様式であったり、バスタブとシャワーが離れていたり日本人でも使いやすい仕様になっていましたが、私たちが宿泊したところはそのような仕様にはなっていませんでした。

ハワイで生活をして一番印象に残っているのは信号です。日本のように信号機自体が目立つデザインになっておらず、よく見落としてしまいそうになりました。また、横断歩道を渡るときに携帯を見てはいけないという交通ルールがあり、そのようなルールがない日本で生活していることから、ハワイでは常にそのことを意識していました。また、現地の人たちと交流してみて、普通に街を歩いているだけやお店に並んでいてすれ違っただけで挨拶をしてくれたり、話しかけてくれたりととてもフレンドリーだと感じました。Alohaという言葉はとても便利だなと思ったのは、年齢や上下関係を気にすることなく相手への敬意をこめたものであり、初めてあった人でもその言葉をかけてコミュニケーションが取れ、距離も縮まると感じたため、その一言があるかないかでフレンドリーさの度合いが変わると感じました。

3 研修を振り返って

(1) 海外研修を通じて成長したこと、感じたこと、得たことを研修前の意識と比べて書くこと (400 字以上)

このハワイ研修を通じて得たことは、自分で自分なりに考え、自分の意見を持つということです。ハワイ大学での授業でマウイ島についてお話していただいたときに、私たちが日本にいるときに見ることができるのはマウイ島に関連するニュースや記事であって、実際の山火事の悲惨さや規模、なぜ発生したのかは現地にいる人にしかわからず、そのニュースなどの記事を読んだ私たちは、誰かに流されるのではなく、自分なりに意見を持つておくことが重要だと教えていただきました。ネットに書き込まれている記事などは、このマウイ島にかかわらず、どれが本当のことでどれが嘘なのか、当事者でなければ誰もわからないようなことに対して、自分なりにいろんな記事を見てどう感じたのか、どう思ったのかを周りに流されずに持つておくことが今回のマウイ島の火災に対しても関心を寄せられたり、その後の行動に関係してくるなど感じさせられました。

私は以前から集団での行動が苦手で、たくさんの人の前だと人の意見に流されることや意見を言えないことが多くありました。しかし、今回の研修では私以外の 9 人が本当に親切だったということもあり、自分の意見をちゃんと聞いてくれたり、受け入れてもらえる場面が多く、集団の中での発言は苦手だったのが自分の意見をもつことに自信を持つことができました。

(2) (1) を今後の学生生活や将来にどう活かしていきたいか、詳しく書くこと (400 字以上)

今回の研修で得た、自分なりに考えて自分の意見を持つていうことを活かして、今後の学生生活や就職活動において、きちんと自分の意見を持つて物事に取り組めるようにしたいと思います。今後の就職活動においては、就活のやり方や受け方は人それぞれで、自分が本当にやりたいものは何か、どこにこだわりをもって就職を決めたのか、周りが就活始めたから、周りが就活終わってるからと周りに流されて決めるようなことがないように、自分なりに計画を立てて進めていきたいと感じました。また、今回の研修で、挑戦してみてもうまいものもあれば、やってみただけどうまいかないことも両方ありましたが、うまいいかなかったにしても挑戦してみたということに対して後悔はなかったため、就職した後でも、失敗につながってしまうことであっても、自分の意思で挑戦する気持ちをもって物事に取り組んでいきたいなと感じました。この研修に参加することは自分自身がこの大学に入学を決めた理由でもあったため、挑戦してよかったなと感じています。

以上

海外研修成果報告書

研修先国および研修機関等： ハワイ大学マノア校（アメリカ）

研修期間： 2023年9月3日（日） ～ 2023年9月10日（日）

1 派遣先で学習した内容（授業内容や視察内容）について、詳しく書くこと（400字以上）

①ハワイの歴史と課題について：ハワイに様々な人種の人が暮らすようになった理由を歴史を学ぶことで学習した。また、歯科においても定期的に通える人とそうでない人がいるのはどのような理由が考えられるかを授業を聞きながら考え発表し、日本とハワイの課題について向き合った。

②アメリカの歯科衛生士の役割について：日本とアメリカの保険制度の違いが歯に対する関心度の差に繋がっていると学んだ。アメリカの歯科衛生士はエックス線撮影、麻酔処置、開業をすることができるが、それは日本とは違い放射線学や麻酔学の授業・実習がしっかり行われ、厳しい国家試験に合格したからこそできることだと学習した。

③シュミレーションセンター：機材は本物を使用していたり、マネキンの性能（脈拍、心拍、瞬き、涙、声を操作することができる）がすごくて驚いた。在宅医療や手術、ER、災害時などの様々な状況のシュミレーションをすることができる施設ということが分かった。

④クリニック見学：日本の歯科医院と比較してディスプレイの物が多く、感染予防対策がしっかりしていると感じた。また、アメリカではエックス線室がなく壁にも鉛が入っておらず、日本とのエックス線被爆についての意識・考え方の違いを感じた。アメリカでは主治医に診察してもらい、どの専門の病院に行くかを主治医が決めるが、歯科も同様にかかりつけ歯科医が専門の医院を紹介して患者が受診するというシステムが主流ということを知った。

2 派遣先での生活（滞在形態、海外での生活や現地の人との交流を通じて印象に残ったこと等）について、詳しく書くこと（400字以上）

ハワイではチップ文化があり、ホテルの部屋の清掃をしてもらう際にチップを置いておかないと、完璧なベットのメイキングや清掃をしてもらえないとチップを置き忘れた時に実感した。それに比べて日本は、おもてなしの心が素晴らしいなど、海外で生活してみて改めて感じた。

バスでの移動の際、どのバスに乗るにもバスの運転手さんが毎回笑顔で挨拶してくれて、とても気分が良かった。他にも、道を歩いていても現地の方が声をかけてくれたり、手を振ってくれたりフレンドリーに接してくれたことが非常に印象に残っている。ハワイは景色や食、文化など様々な面で有名な観光地であるが、現地の方の明るく優しい人柄も観光地として栄えている理由でもあるのではと感じた。

ハワイのドラッグストアに行った際に、仮着用歯科セメントや歯科麻酔薬、ホワイトニング剤など日本にはない商品がたくさんあって驚いた。しかしそれは、アメリカでは保険がなくて歯科医院に行けない人がたくさんいるため、自分でも簡単な処置ができるように様々な商品があるのだと分かった。

3 研修を振り返って

(1) 海外研修を通じて成長したこと、感じたこと、得たことを研修前の意識と比べて書くこと（400字以上）

私は元々英語に苦手意識があり、今回の海外研修が不安でしたが、伝えようという気持ちがあればうまく英語ができなくてもジェスチャーや知っている単語の羅列だけでもうまく汲み取って理解してもらえたため、コミュニケーションを取ることを恐れずにできるようになった。

アメリカでは、予防歯科が中心であり、理由としては治療費が高いため患者も歯に対する関心度が高い人が多く、検診やクリーニングを目的に歯科へ受診する人がほとんどということを知った。日本でも最近、予防歯科のニーズが高まってきているが、未だ痛みを訴えて歯科受診する人が多い。しかし、徐々に日本もアメリカのように予防歯科中心になっていくのではないかと感じた。

クリニック見学時、口腔外検査（EOE）の実習をして、口腔内だけを検査・観察するのではなく、顔全体や歩き方、話し方、皮膚、リンパ節などの口腔外も検査・観察することで口腔がただでなく、疑わしい病変をスクリーニングでき、早期発見に繋げることができる大切な検査だということが理解できた。歯科衛生士は歯科に特化した職業ではあるが、口腔の疾患のみならず、全身的な異変や病変に気づくことができるようにならなければならないと研修を終えて、より強く思った。

(2) (1) を今後の学生生活や将来にどう活かしていきたいか、詳しく書くこと（400字以上）

学部の4年生の中から選んでもらい、海外研修へ行かせていただいたので、まずは保健医療学部4年生のみんなに日本とアメリカの歯科衛生士の違いや口腔に対しての関心度の差など、学んだことを海外研修に行けなかった人たちも同じくらいの知識を得られるように伝えていきたい。

何か新しいことにチャレンジする時や苦手なことをする時に、普段よりネガティブに考えてしまい、消極的になってしまう癖があるので、今回の海外研修を通じて「不安でもチャレンジすることで得られるものがある」ということを改めて実感できたため、この考え方を今後も活かして、チャレンジすることを恐れずに成長していきたいと思う。

海外の歯科医院の見学と海外で働く歯科衛生士の方の講義を通じて、予防歯科の重要性をより強く感じた。アメリカでは保険制度の仕組みによって口腔の健康意識が高いが、日本はそうではない。今後、歯科衛生士になって働く際に、歯科衛生士としていかに患者さんが自身の口腔に対して関心をもってもらえるようになるか、痛みがなくても定期的に歯科受診をしてもらえるようになるかが重要になってくると思うので、今回の海外研修で学んだ予防の重要性を患者さんや同業者の方にも伝えていき、予防歯科を広めていきたいと思った。

以上